Japan Lifeline



…for patient comfort.

2025年3月期
通期決算説明資料

決算発表　　：2025年5月7日
決算説明会　：2025年5月8日

日本ライフライン株式会社
東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2025 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

Ver.2 ※軽微な修正および資料追加を行いました(2025/5/12)
修正内容は、90ページをご確認ください

本日の内容

1. 2025年3月期　通期決算
2. 2026年3月期　通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1　補足資料

Appendix 2　インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

本日の内容

1. 2025年3月期　通期決算
2. 2026年3月期　通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1　補足資料

Appendix 2　インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

2025/3期 通期 決算ハイライト

	2025/3期 通期
売上高	過去最高 56,610 百万円 (前期比 +10.2%)
営業利益	過去最高 12,326 百万円 (前期比 + 13.2%)
当期純利益	過去最高 9,317 百万円 (前期比 + 24.0%)

決算ハイライト

二桁増収・二桁増益

(売上高・営業利益・純利益は通期ベースで過去最高)

外部要因

(+) AF症例数は前期比約10%増

(−) 公定価格の改定（24/6～）

内部要因

(+) コア製品群*1は好調に推移

(+) 新領域は前期比73%増

(−) 販管費の増(一過性のコスト増を含む)

(+) 一過性の要因で繰延税金資産を計上

*1 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンステントグラフト」から変更)

2025/3期 通期 連結P/L

Japan Lifeline

✓ 売上高および各利益は通期ベースで過去最高

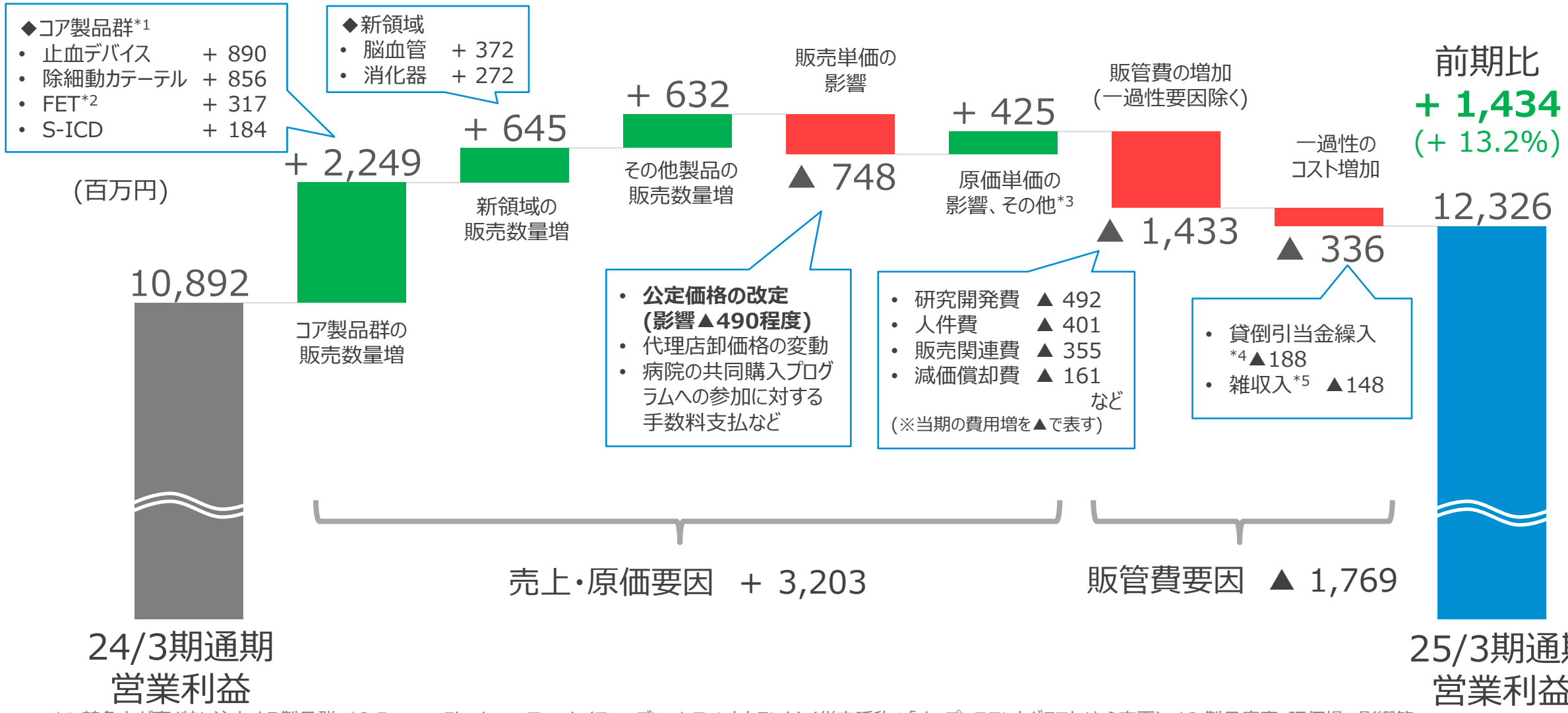
(百万円)	2024/3期 通期	2025/3期 通期	前期比	前期比%	コメント
売上高	51,384	過去最高 56,610	+ 5,225	+ 10.2	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	30,986	過去最高 34,191	+ 3,204	+ 10.3	(−) 公定価格の下落 (+) 自社製品の原価低減 (+) 在庫の廃棄損・評価損の減少 (前期比▲119M) ※M=百万
%	60.3%	60.4%		+ 0.1pp	
販管費	20,094	21,864	+ 1,769	+ 8.8	次ページで詳細説明
営業利益	10,892	過去最高 12,326	+ 1,434	+ 13.2	次ページで詳細説明
%	21.2%	21.8%		+ 0.6pp	
当期純利益	7,515	過去最高 9,317	+ 1,801	+ 24.0	(+) 税額控除の適用 (+) 繰延税金資産の計上*1 ※税負担率22.5%
%	14.6%	16.5%		+ 1.9pp	
自社製品比率	58.8%	57.4%		▲ 1.4pp	脳血管・止血デバイス等の仕入品の拡大*2
海外売上高比率	1.4%	1.9%		+ 0.5pp	
1株当たり利益	98.73円	131.43円	+ 32.70円	+ 33.1	(+) 発行済株式数*3の減少

*1投資有価証券の評価損に係る一時差異が予測可能な期間内に解消する可能性が高くなったことで繰延税金資産351百万円を計上 *2 仕入商品の売上高は前期比14.0%増加 (自社製品は同7.5%増加) *3 期中平均・自己株式を除くベース

2025/3期 通期 営業利益の増減分析

Japan Lifeline

✓ 販売数量の増加で販管費の増加をカバーし、二桁増益を達成(一過性要因を除いた場合、16.3%増益)

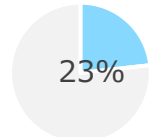


*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンステントグラフト」から変更) *3 製品廃棄・評価損の影響等を含む *4 債権回収に伴う貸倒引当金戻入51百万円を含む。表示金額はネットの金額 *5 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等を前期に計上

当社の品目区分

既存領域 【構成比94%】*1

リズムディバイス



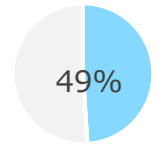
- **不整脈**を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション



- **不整脈**手術で使われる医療用管など



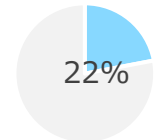
【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連



- **大動脈**の外科手術で使われる人工臓器など

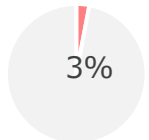


【コア製品】
フローズンエレファントトランク

旧呼称：オープンステントグラフト

新領域 【構成比6%】*1

脳血管関連



- **脳血管**の詰まりを解消する管など



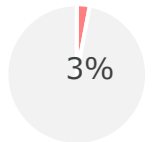
血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

成長事業

消化器



- **消化器**の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

*1 構成比は25/3期実績

当社の収益モデル

Japan Lifeline

- ✓ 医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高 ＝ **数量** × **単価**

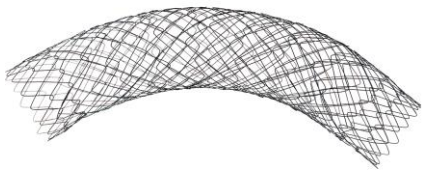
手術件数 (症例数) × 当社シェア

公定価格 (保険償還価格) × 掛率 (代理店卸値)







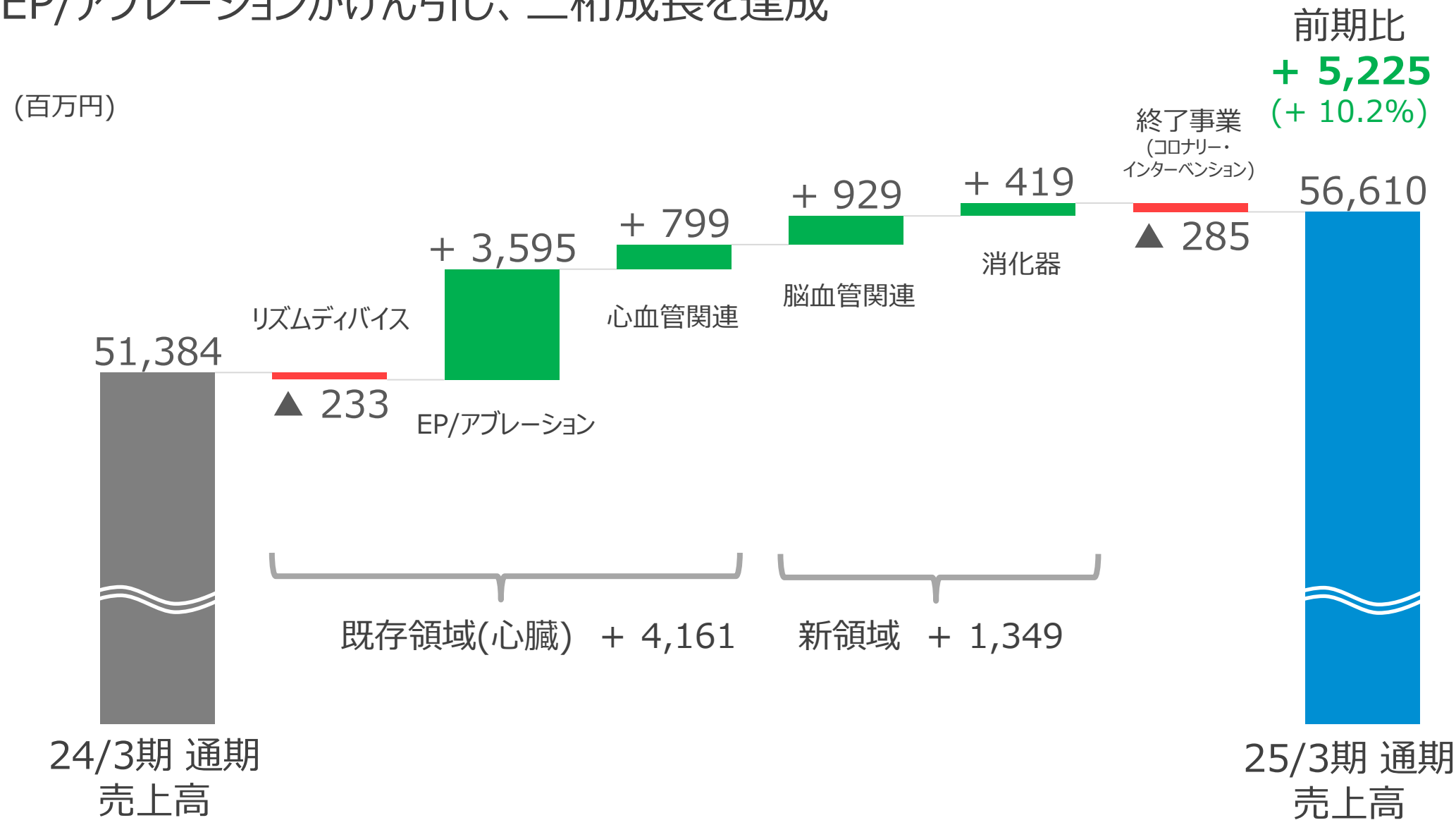


取り扱い製品のほとんどが、手術で使用される使い切りの医療機器

2025/3期 通期 売上高 増減分析

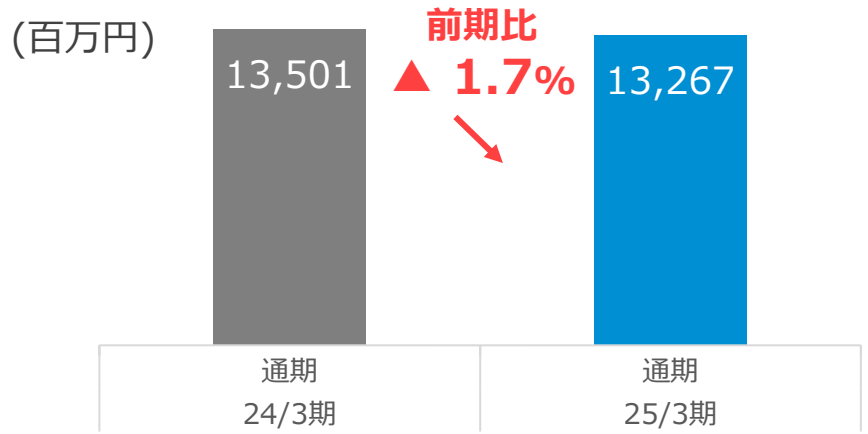
Japan Lifeline

✓ EP/アブレーションがけん引し、二桁成長を達成



S-ICDが二桁成長するも、ペースメーカが軟調で若干の減収

リズムディバイス 売上高



市況認識

※Q4末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

(−) 他社のリードレスペースメーカの市場浸透が進む
(新規市場の約30%)

(−) <u>他社が新型ICDを3月より販売開始</u>

(+) ペースメーカ・ICD市場は緩やかに拡大

(−) 公定価格の下落（24/6～）

- ペースメーカ▲13%、T-ICD▲5%、S-ICD 下落なし

販売ハイライト

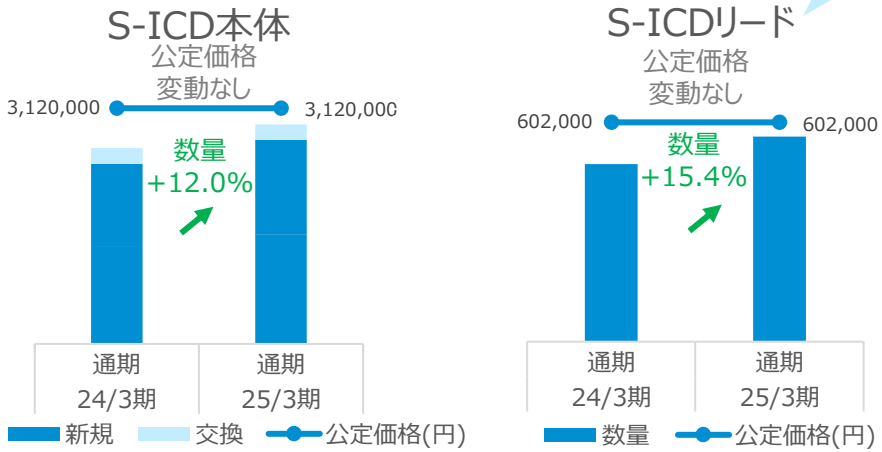
(+) コア製品のS-ICD 12.4%増収

- 医師向け植込みトレーニングを数多く行い、新規症例を獲得
- 新規ICD植込み症例 推定自社シェア約40% (Q4)

(−) ペースメーカ関連 14.0%減収

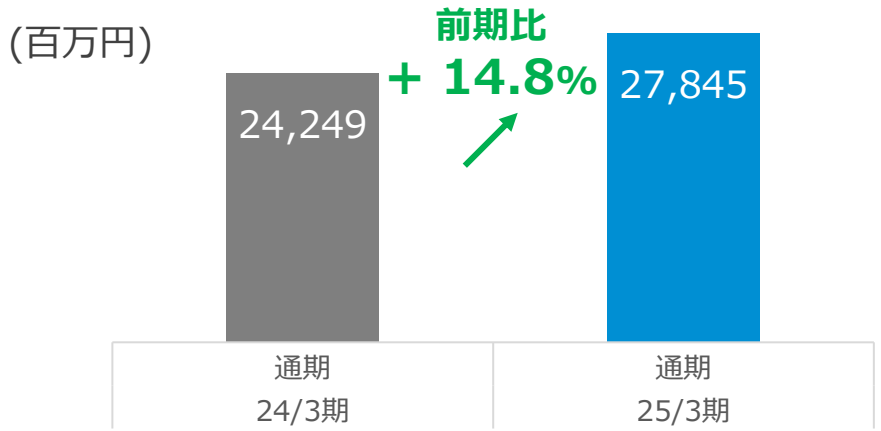
- 他社リードレス製品の影響を受ける
- 公定価格の下落

コア製品



2つのコア製品が好調に推移し、二桁成長＆過去最高を達成

EP/アブレーション 売上高



販売ハイライト

(+) コア製品の心腔内除細動カテーテル 8.7%増収

- 推定自社シェア96%(3月)、自社オンリーワンモデルを伸ばす
- PFAによる治療でも除細動ニーズは継続

(+) コア製品の止血デバイス QoQ 4.7%増収

- 当初目指していた約400施設への導入を達成

(−) 食道温モニタリングカテーテル 1.2%減収

- PFAの普及によりQ4は▲33.8%減収

市況認識

※Q4末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

(+) 心房細動(AF)症例数が増加

- **前期比 +10%程度**（期初想定：通期で+8%）

(−) 国内へのPFA*1の導入が加速

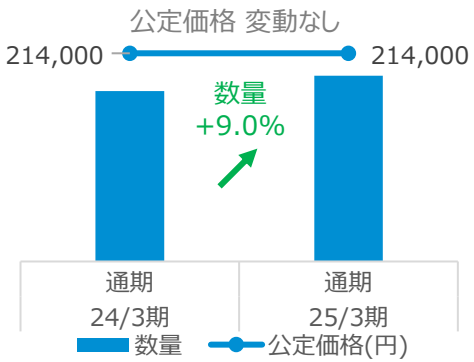
- 競合外資3社が販売
- 足元でAF症例の約35%はPFAによる治療と推測

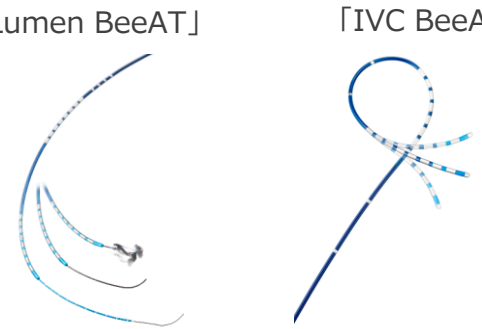
(−) 国内2社が除細動カテーテルに新規参入

(−) 公定価格の下落 (24/6～)

コア製品

心腔内除細動カテーテル



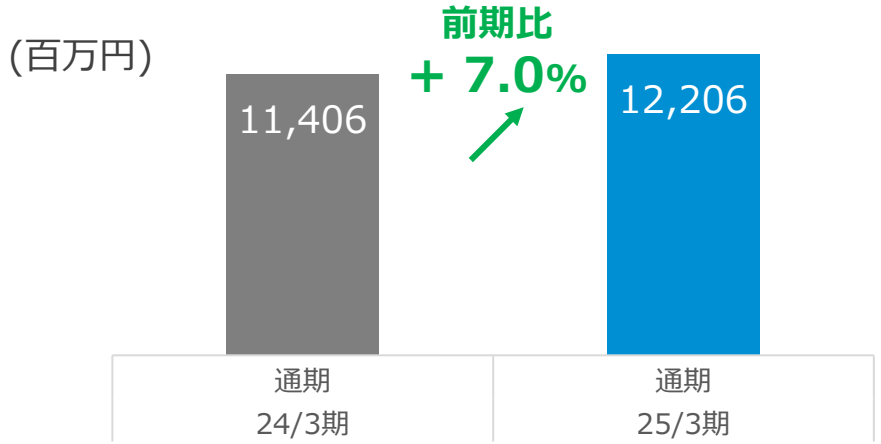


心腔内除細動カテーテル
当社独自モデル

*1 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション。カテーテルアブレーションの新しい治療法

Frozen Elephant Trunk (FET)*1を大きく伸ばす

心血管関連 売上高



販売ハイライト

(+) コア製品のFET 9.6%増収

- 推定自社シェア91%(3月)
- 市場のトレンドとなっている「人工血管一体型」FETの拡販に注力
- 不足サイズの在庫を充足し、シェアの巻き返しを図る

(+) 腹部ステントグラフト 5.3%増収

- 他社と差別化されたモデルの訴求が奏功しシェア拡大

市況認識

※Q4末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

(+) FET症例が増加

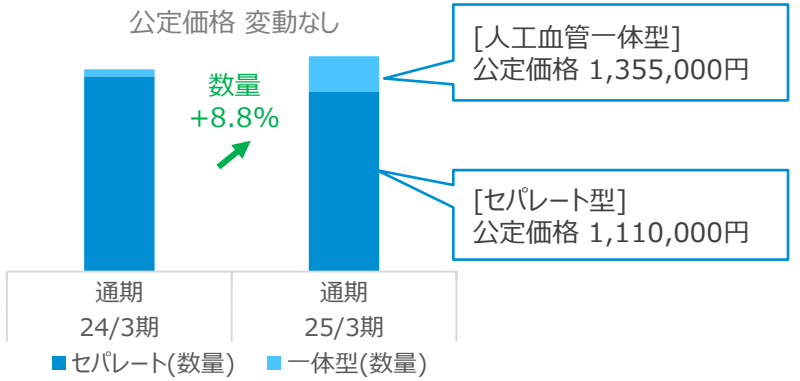
- 他社の新規参入による市場活性化や新しい一体型FETの手技浸透により、年10%程度で市場が拡大中

(−) 公定価格の下落

- 人工血管 ▲3%、FETは下落なし

コア製品

Frozen Elephant Trunk



「Frozenix 4 Branched」

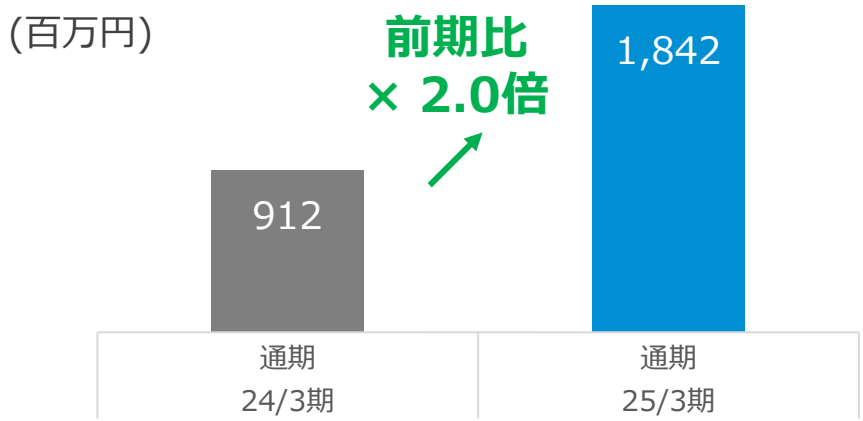


FET 人工血管一体型

*1 FET：大動脈瘤などの開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管

ステントリトリーバーの上市で脳梗塞製品の販売シナジーが加速

脳血管関連 売上高



販売ハイライト

脳動脈瘤

- **(+) 塞栓用コイル 前期比 1.6倍**
  - ➢ 新しく導入した細径モデルと腹部向けモデルが好調

脳梗塞

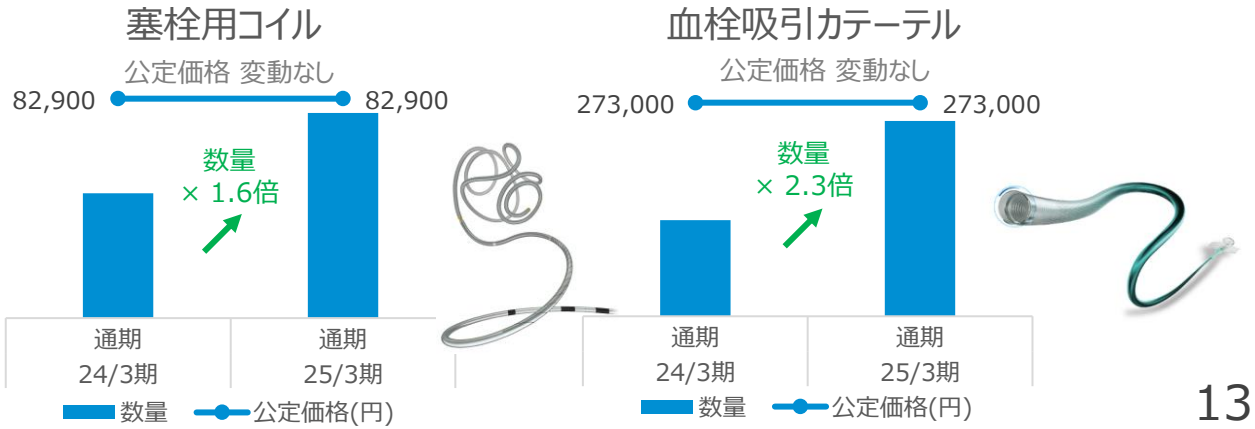
- **(+) 血栓吸引カテーテル 前期比 2.3倍**
  - ➢ ステントリトリーバーとの併用で販売が加速
  - ➢ 細径モデルの訴求に成功し、順調に拡大
- **(+) ステントリトリーバーQoQ 1.5倍**
  - ➢ Q4で施設預託をさらに拡大

市況認識

※Q4末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

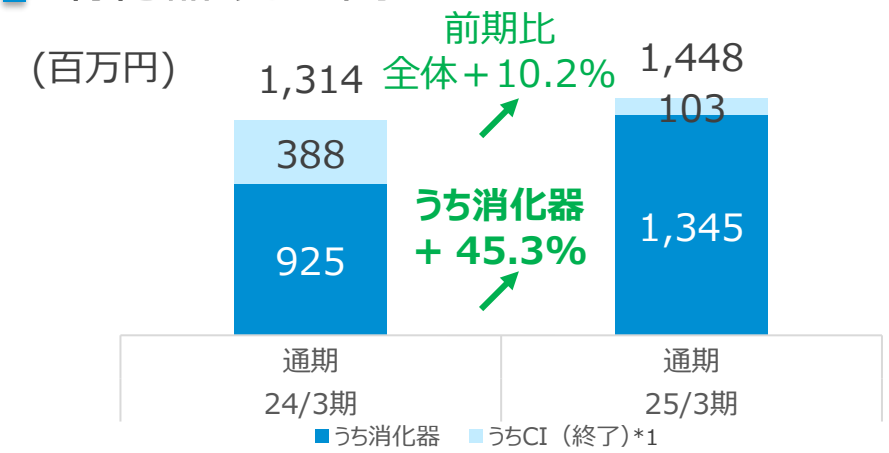
(±) 公定価格の下落の影響なし
(−) 脳動脈瘤のフローダイバーター症例が急増中(コイルからの置き換わり)
(+) 脳血管内のデバイス治療は現在普及期、今後CAGR8%程度の成長を予想
(±) 参入企業は多いが、価格競争には陥っていない

注力商品



胆膵関連を中心に順調に拡大、肝臓領域製品は販売移管の準備を進める

消化器 売上高



販売ハイライト

胆膵	**(+) 胆管チューブステント 前期比 1.4倍**
	(+) 胆管拡張バルーンをフルリリース（Q4）
	(+) 造影カニューラを上市（Q4）
肝臓	(+) 肝がんアブレーションニードルはQ4に在庫の一括販売あり
	前期比23%増収(テルモ社への販売委託)
消化管	(+) 大腸用ステント 22.6%増収
	(+) 胃・十二指腸用ステント 前期比 2.2倍

市況認識

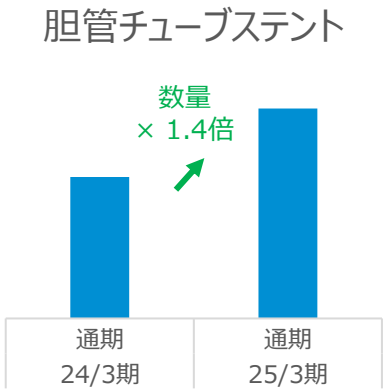
※Q4末時点。前回からの追記・変更を下線で示す

(+) 胆膵処置具の市場は年3～4%で拡大

(−) 胆管チューブステントは公定価格が大幅に下落

- 24/6は5%引き下げ
- さらに、26/3にかけて累計35%の段階的な引下げへ

注力製品





胆管チューブステント



造影カニューラ

*1 CI: Coronary Intervention (心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに関連する事業)

本日の内容

1. 2025年3月期　通期決算
2. 2026年3月期　通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1　補足資料

Appendix 2　インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

2026/3期 通期 業績予想

	2026/3期 通期予想
売上高	59,300 百万円 (前期比+4.8%)
営業利益	12,900 百万円 (前期比+4.7%)
当期純利益	9,350 百万円 (前期比+0.3%)

業績予想ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・純利益は過去最高を更新する見込み)

外部要因

(+) AF症例数は前期比約10%増加

(−) PFAの浸透による一部製品減収

内部要因

(+) コア製品群*1は概ね成長継続

(+) 新領域は前期比30%増

(−) 前期に一過性の要因で繰延税金資産を計上(351百万円)

*1 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンステントグラフト」から変更)

2026/3期 通期 連結P/L予想

Japan Lifeline

✓ 売上高および各利益は通期ベースで過去最高となる見込み

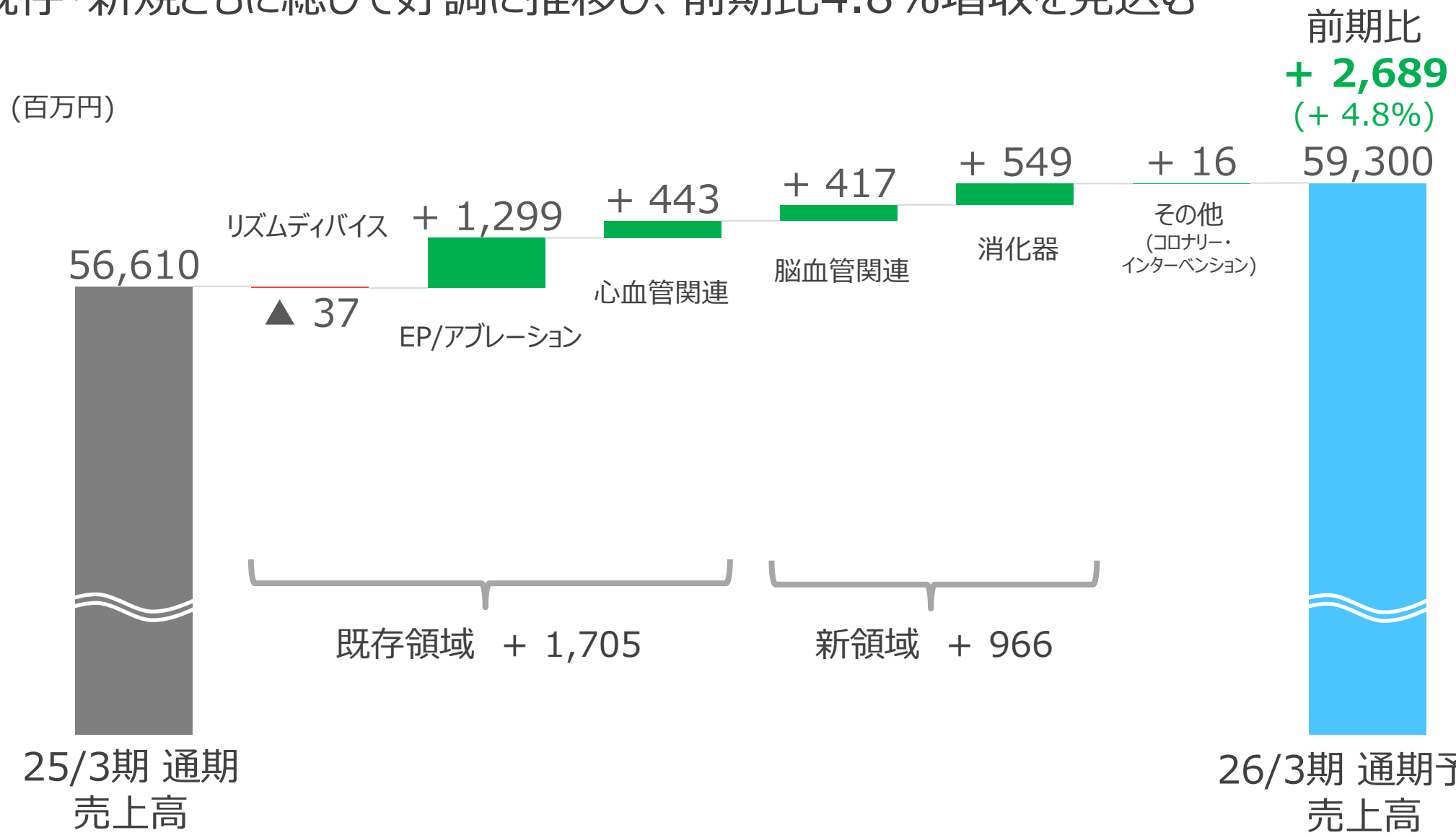
(百万円)	2025/3期 通期	2026/3期 通期予想	前期比	前期比%	コメント
売上高	56,610	59,300	+ 2,689	+ 4.8	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	34,191	35,400	+ 1,208	+ 3.5	(+) 売上高増加 (−) 一部製品の生産調整 (−) RFニードルの販売支援終了*1
%	60.4%	59.7%		▲ 0.7pp	
販管費	21,864	22,500	+ 635	+ 2.9	(+) 前期に一過性コストあり (−) 人件費・R&D等増加
営業利益	12,326	12,900	+ 573	+ 4.7	上記により、前期並みの営業利益率を想定
%	21.8%	21.8%		± 0.0pp	
当期純利益	9,317	9,350	+ 32	+ 0.3	(−) 前期に繰延税金資産計上 ※税負担率27.5%
%	16.5%	15.8%		▲ 0.7pp	
自社製品比率	57.4%	58.1%		+ 0.7pp	(+) EP/アブレーション、心血管関連の自社製品伸長*2
海外売上高比率	1.9%	2.1%		+ 0.2pp	
1株当たり利益	131.43円	133.30円	+ 1.87円	+ 1.4	

*1 2025年12月末に終了予定。前期に年間約6億円の売上高・利益寄与あり　*2 自社製品の売上高は前期比6.2%増加 (仕入商品は同3.0%増加)

2026/3期 通期 売上高予想

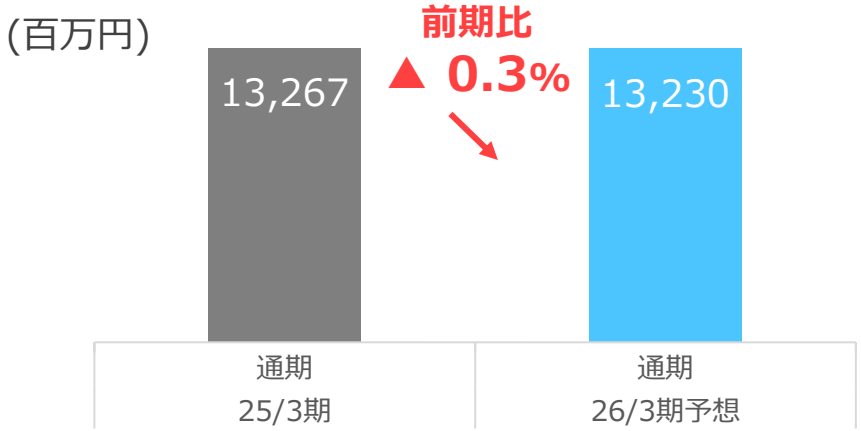
Japan Lifeline

✓ 既存・新規ともに総じて好調に推移し、前期比4.8%増収を見込む



既存製品はやや厳しい見通しだが、新たにリードマネジメント市場に参入

リズムディバイス 売上高



市況予測

(−) 他社のリードレスペースメーカの市場浸透が進む
(新規市場の30～35%程度)
(−) 他社が新型ICDを前期Q4から販売開始

販売予想

(−) S-ICD 3～4%減収

- 新規症例は堅調だが、交換症例は減少する見込み
- 他社の新製品立ち上げの影響を若干見込む

(−) ペースメーカ関連 8%減収

- 他社のリードレス製品の影響を受ける

(+) リードマネジメント製品をQ1から販売開始

- フィリップス社製、国内独占販売
- 約7億円の市場に新規参入



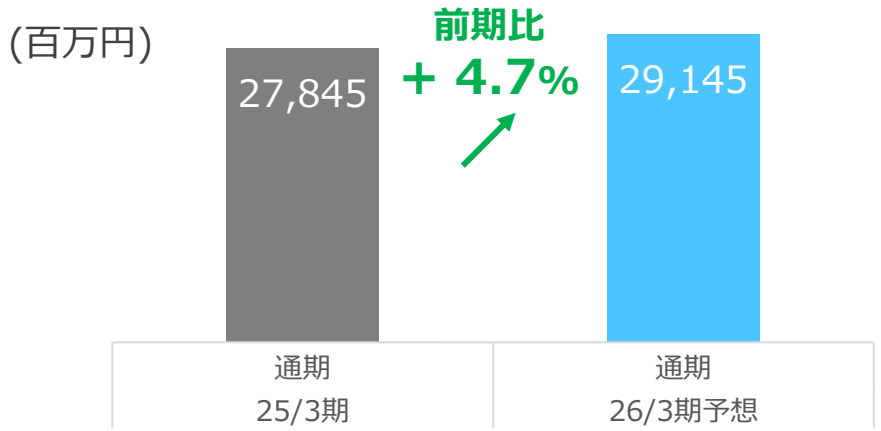
ボストン・サイエンティフィック社製
S-ICD



フィリップス社製
リードマネジメント製品

PFA*1へのシフトが進む中でも、コア製品群が成長をけん引

EP/アブレーション 売上高



市況認識

(+) 心房細動(AF)症例数が増加

- 前期比+10%程度を予想

(−) 国内へのPFAの導入が加速

- 競合外資3社が販売
- 期末でAF症例におけるPFA率は40～50%程度を予想

販売予想

(+) 心腔内除細動カテーテル 8～9%増収

- AF症例数の増加に伴い数量増加、自社シェアは95%程度を維持
- PFA下で除細動カテーテルは従来と変わらない立ち位置を確立

(+) 止血デバイス 約20%増収

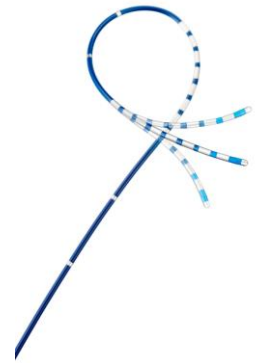
- ハイボリューム施設には前期でアプローチ完了
- 今後、症例数の少ない施設にもすそ野を広げる

(−) 食道温モニタリングカテーテル 30%程度減収

- PFAでは不要となるため、大幅な減収を見込む

(−) RFニードルの販売支援がQ3末で終了

- 前期の年間の売上高・利益寄与は６億円弱
- 自社製品を開発中

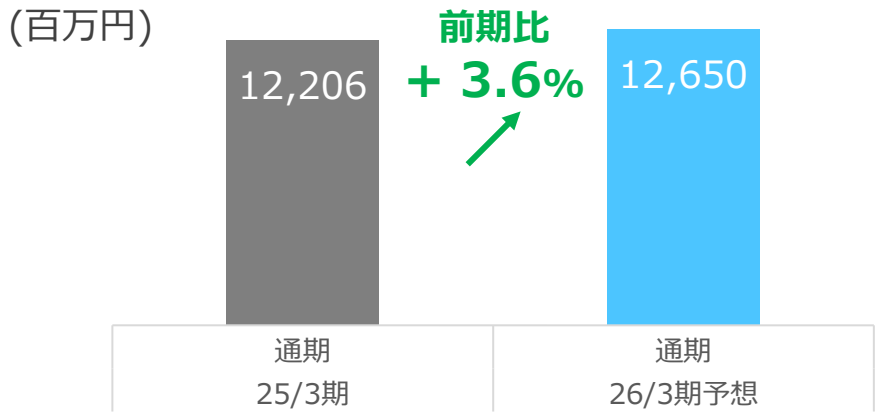


心腔内除細動カテーテル
「IVC BeeAT」

*1 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション

Frozen Elephant Trunk (FET) を軸に堅実な成長を目指す

心血管関連 売上高



市況認識

(+) FET症例は堅調に増加

- 年5～9%程度で市場が成長

(+) 人工血管市場から他社が一部撤退

(+) 2025年より心房中隔欠損閉鎖術(ASD)の施設認定基準が緩和。現状約90施設⇒120施設程度へ拡大見込み

販売予想

(+) FET 8～9%増収

- 市場成長を取り込み数量増加、自社シェアは90%程度を維持

(+) 心房中隔欠損閉鎖器具 約10%増収

- デバイスの留置性能を訴求し、シェア増加をねらう

(+) 腹部ステントグラフト 微増収

- AFX2とAltoの特長ある2ラインでの展開を継続。AFX2はサイズ追加を行い、シェアを拡大を目指す



FET 人工血管一体型
「Frozenix 4 Branched」



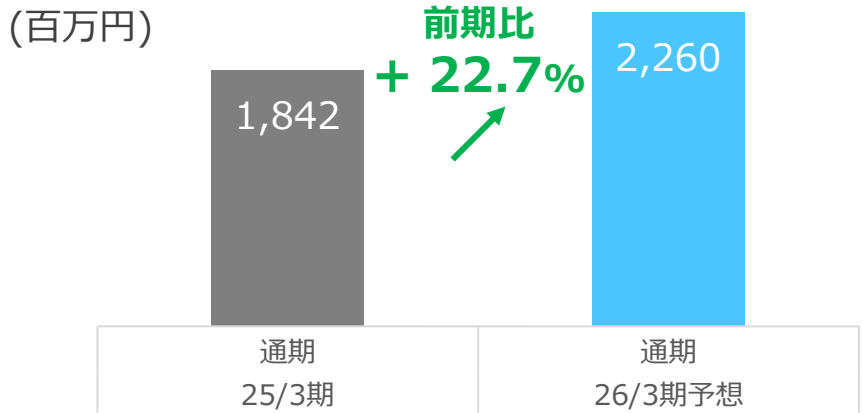
心房中隔欠損閉鎖器具
「Figulla Flex II」



腹部ステントグラフト
左：「AFX2」 右：「Alto」

ラインナップが完成した脳梗塞領域で市場シェアを拡大

脳血管関連 売上高



市況認識

(+) 症例数は堅調な増加基調が継続

(−) 脳動脈瘤症例のデバイス選択でコイルからフローダイバーターへのシフトが進む

販売予想

脳動脈瘤

(+) 塞栓用コイル 約10%増収

- 心臓血管外科や放射線科での使用(=細い血管の塞栓)が見込めるため、他診療科への拡販も進め成長をねらう

脳梗塞

(+) 血栓吸引カテーテル 約30%増収

- ステントリトリーバーとの併用で販売拡大
- 細径モデルを追加導入して市場を開拓

(+) ステントリトリーバー 前期比約2倍

- 市場ニーズに応えた透視マーカ付きモデルを上市予定


塞栓用コイル
「Avenir」

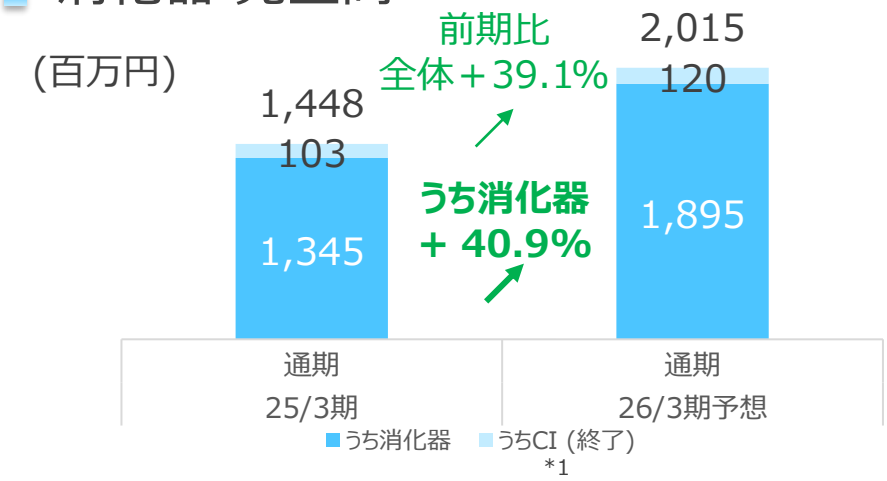

血栓吸引カテーテル
「Esperance」


ステントリトリーバー
「pRESET」

2026/3期 通期 消化器予想

胆膵領域に営業リソースを集中させ、個々の製品の底上げを図る

消化器 売上高



市況認識

(+) 胆膵処置具の市場は年3～4%で拡大

(−) 胆管チューブステントは公定価格が大幅に下落

- 26/3末にかけて累計35%の段階的な引下げ

販売予想

(+) ノンコアの肝臓領域製品を販売委託(Q1～)し、胆膵関連製品に営業リソースを集中

(+) 胆管チューブステント 25～30%増収

- 2つの新モデルを投入、エビデンス構築も進める

(+) 胆管拡張バルーンの販売を加速

- 使用頻度の高い市中病院への預託を進める

(+) その他、内視鏡ガイドワイヤー、胃・十二指腸用ステント、造影カニューラ等の個々の製品の市場浸透を図る


胆管チューブステント


胆管拡張バルーン


内視鏡ガイドワイヤー

*1 CI: Coronary Intervention (心筋梗塞などの虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに関連する事業)

自己株式の消却

✓自己株式の消却の方針にしたがい、2025/5に445万株を消却

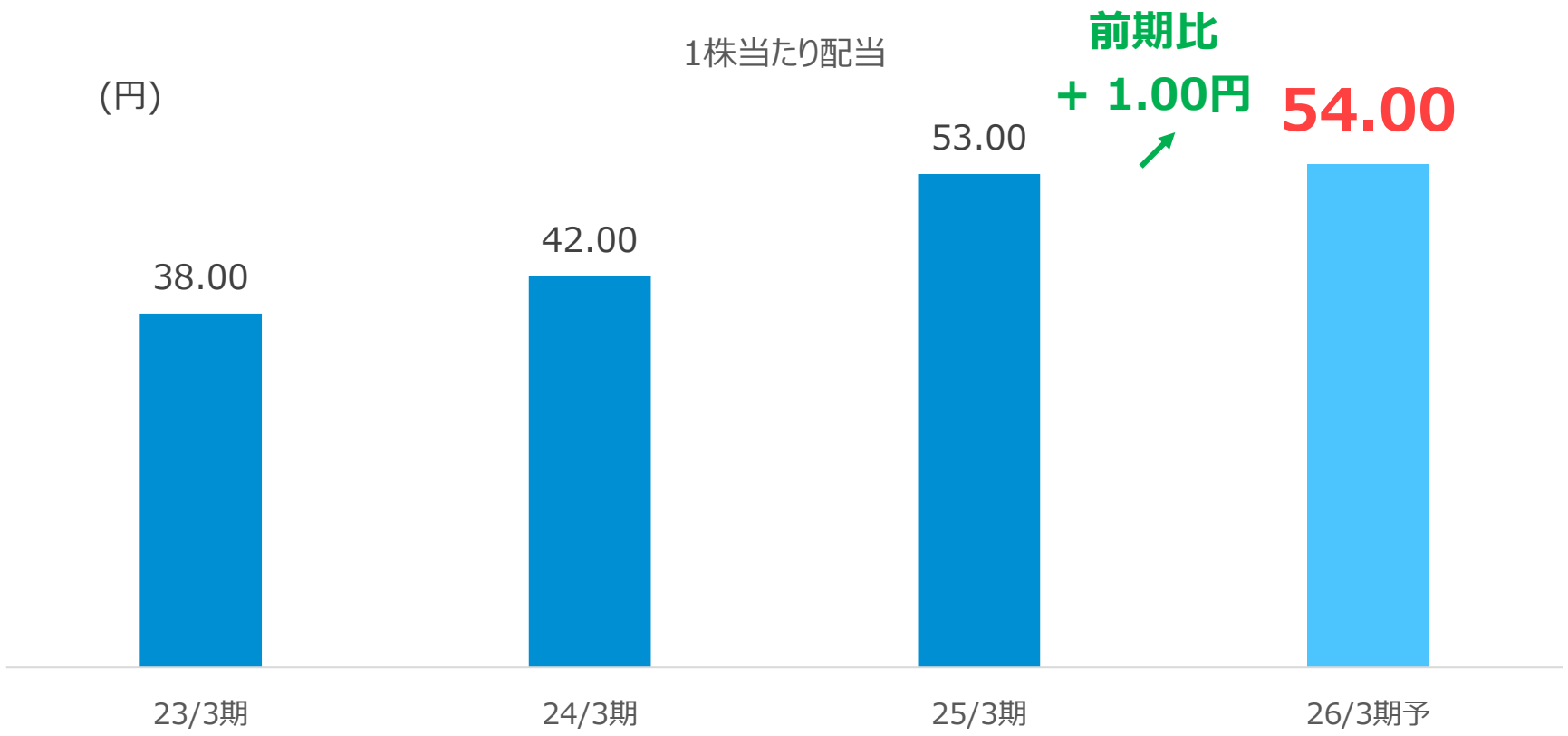
(株)	消却前 2025/3末	消却 2025/5/16予定	消却後
発行済株式総数	75,758,470	▲4,458,470	71,300,000
自己株式数	5,661,667	▲4,458,470	1,203,197
発行済株式総数に対する割合	7.5%	－	1.7%
発行済株式数（自己株式を除く）	70,096,803		70,096,803

消却の方針

✓ 使途が見込まれるものを除き、**発行済株式総数の１％程度**を超える自己株式は原則として消却する

2026/3期 配当予想

✓ 1株当たり配当は54円を予想 (前期比1円増配、配当性向40.5%)



	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期予
配当性向	43.1%	42.5%	40.3%	**40.5%**
DOE*1	5.4%	5.6%	6.5%	6.1%

*1 Dividend on Equity 株主資本配当率

本日の内容

1. 2025年3月期 通期決算
2. 2026年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. これまでの振り返り

2. 今後の展望

3. 財務戦略アップデート

中期経営計画(2024/3期～2028/3期) 進捗状況

Japan Lifeline

✓ コロナ禍明けのポジティブな事業環境と重点施策の良好な進捗を受け、業績は中期計画2年目まで順調に進捗中

	2025/3期			2028/3期 目標 (2023/5設定)
	当初中計 (2023/5設定)	期初予想 (2024/5設定)	実績	
売上高	510億円	540億円 ↗	566億円 ↗	630億円
新領域売上高	28億円	28億円 →	32億円 ↗	80億円
営業利益率	19.6%	20.4% ↗	21.8% ↗	20%水準 (毎期)
EPS	93.20円	113.58円 ↗	131.43円 ↗	120.00円
ROIC	10.4%	12.7% ↗	13.7% ↗	12.0%

重点施策の振り返り 1/3

Japan Lifeline

✓ 当初定めた重点施策はこれまで順調に進捗



当初想定した取組み
(2024/3期～2025/3期)



振り返り
(2024/3期～2025/3期)

① **新領域の拡大**	• 脳血管と消化器の拡大	→	脳血管	• 新製品ロンチは概ね計画通り • 売上進捗は**想定より20%程度良い**
			消化器	• 新製品ロンチは概ね計画通り • 胆膵領域に注力し、**主力製品はシェア拡大**
② **競争力ある製品の継続的導入**	• コア事業であるEP/ABLと心血管関連の競争力の維持拡大	→	EP/ABL	• **除細動カテーテルはシェア95%**を維持 • **止血デバイスが好発進**
			心血管	• **FETはシェア90%**を維持
③ **資本効率を意識した経営の強化**	• ROICやEPSを意識した資本配分、株主還元の強化	→	• ROICとEPSの進捗は想定を上回る • 中期の方針通り、配当と自己株式の取得で積極的に還元	

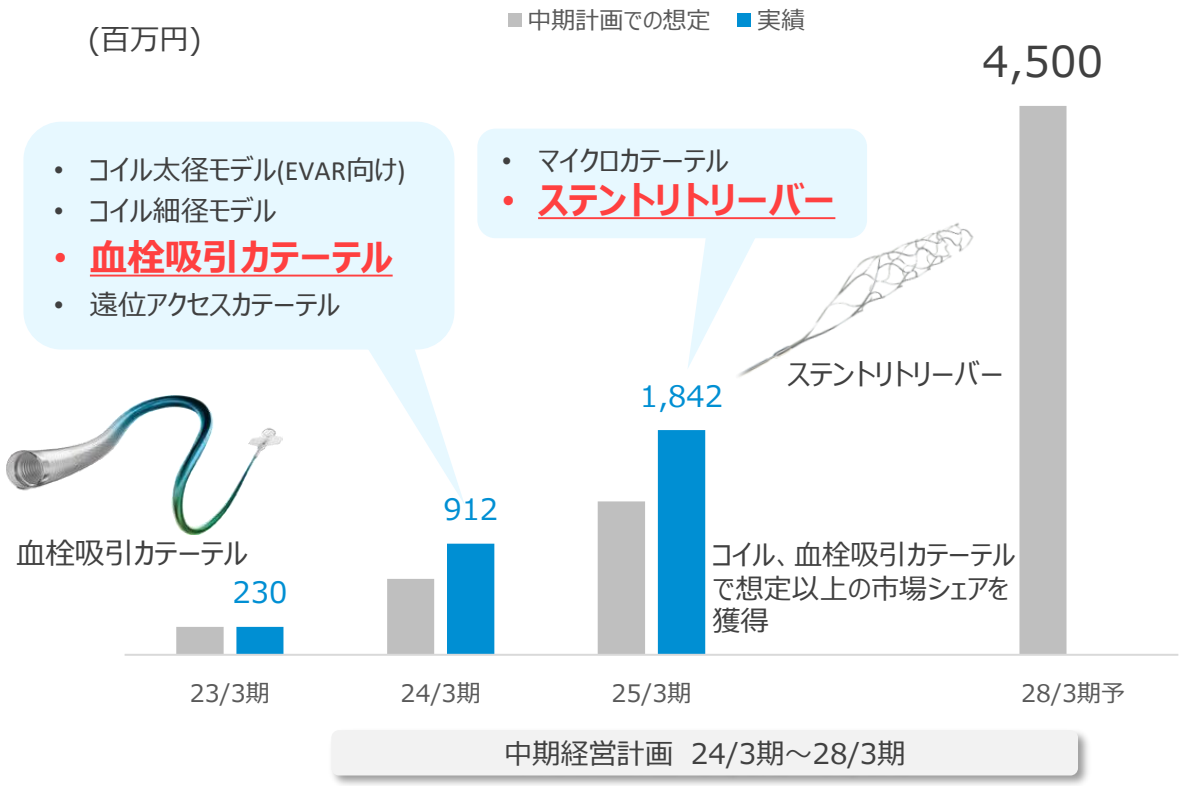
重点施策の振り返り 2/3

✓ 28/3期 脳血管＋消化器で80億円の目標に向けて、25/3期は32億円まで進捗

脳血管関連

戦略：脳血管内治療の製品群(仕入品)をタイムリーに上市

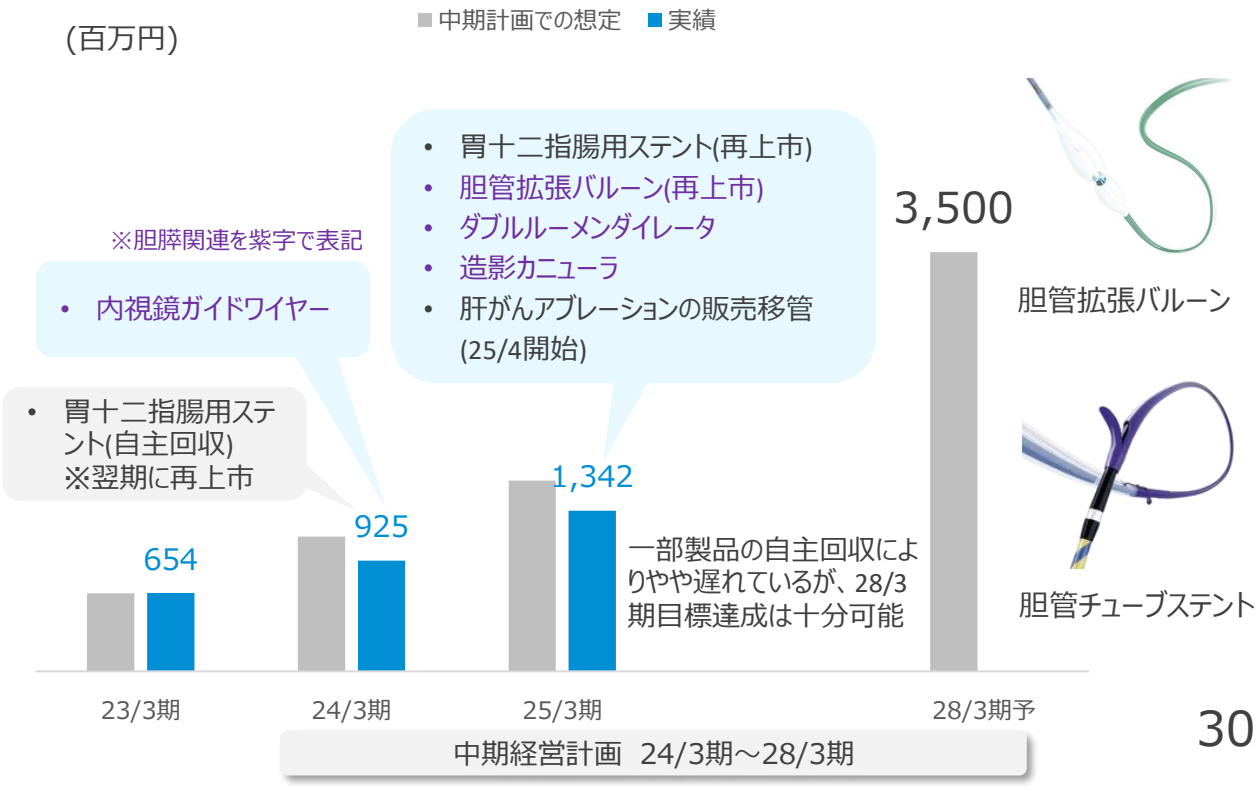
→脳梗塞関連はフルラインナップ化が完了



消化器

戦略：胆膵分野の製品群(主に自社品)をタイムリーに上市

→順調。チューブステント等が成長をけん引



重点施策の振り返り 3/3

✓ 利益貢献トップ２の自社製品の強化と大型新商品の導入が期待以上に進捗。
市場拡大の追い風も受け、業績ドライバーとしての役割を果たす

コア製品①

【EP/アブレーション】
利益貢献No.1

心腔内除細動カテーテル



■95%以上のシェアを維持

- ✓ 治療の新トレンドである**PFAに合わせた新製品(IVCタイプ)が浸透**
- ✓ 心房細動の症例数は10%程度の増加が継続、成長を取り込む

コア製品②

【EP/アブレーション】
大型新商品

大腿静脈用止血デバイス



■累計販売本数10万本達成、症例ベースシェア3割に到達

- ✓ 24/3期Q3に上市後、約1年で**全国のアブレーション施設800のうち約半数に導入完了**

コア製品③

【心血管関連】
利益貢献No.2

Frozen Elephant Trunk (FET)



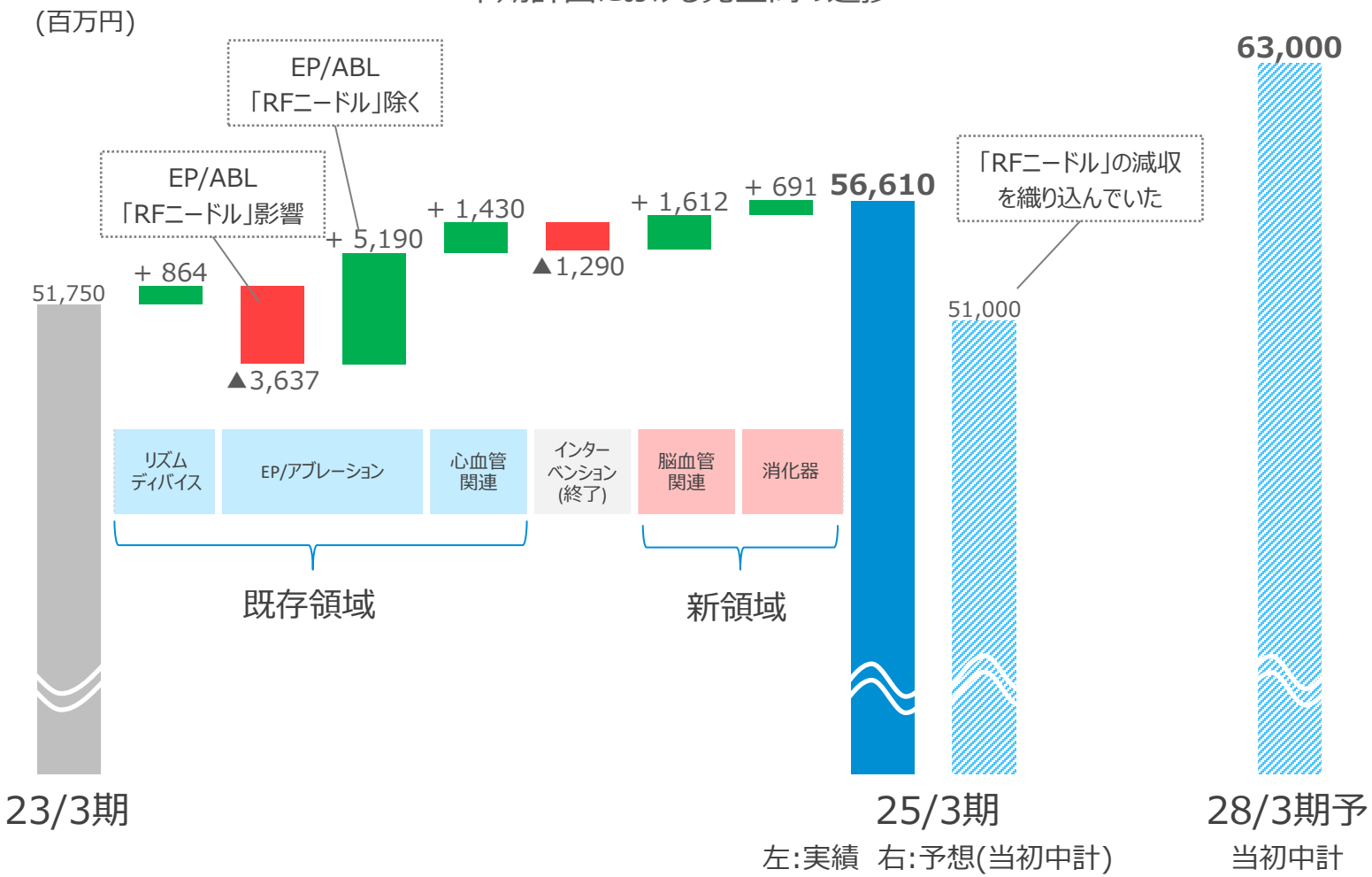
■90%以上のシェアを維持

- ✓ 若手の外科医を中心にFETが受容され、**市場も急速に拡大中**
- ✓ 一部サイズの不足が懸念されたが、**25/3期中に在庫充足を完了**

数値目標の進捗状況 – 売上高

✓ 25/3期売上高は中期計画立案時(23/5)の想定を50億円以上上回った。想定を上回る症例数の増加と新領域(特に脳血管領域)での好調などが背景

中期計画における売上高の進捗

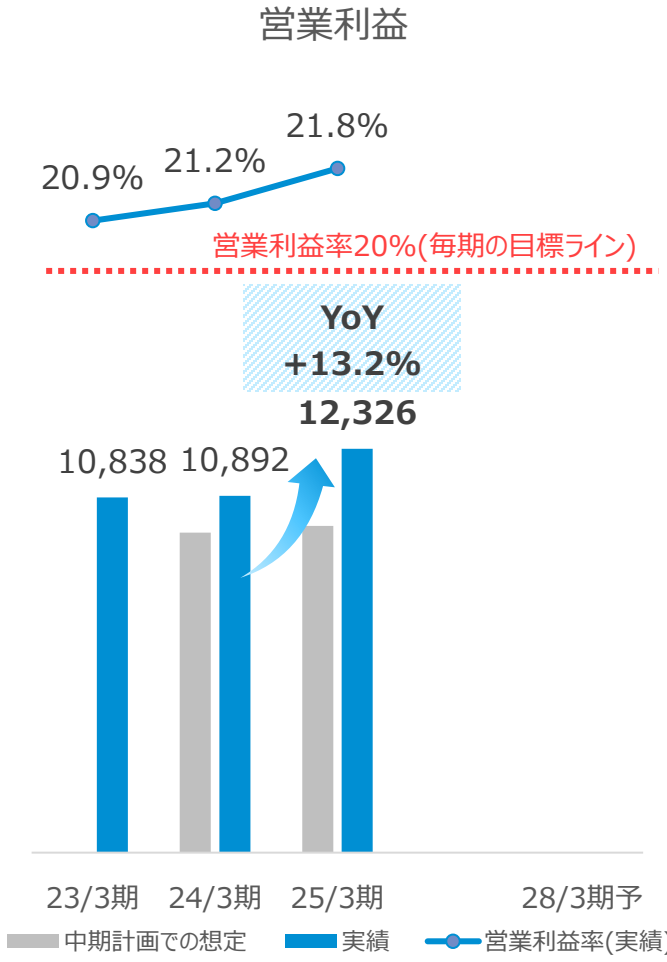


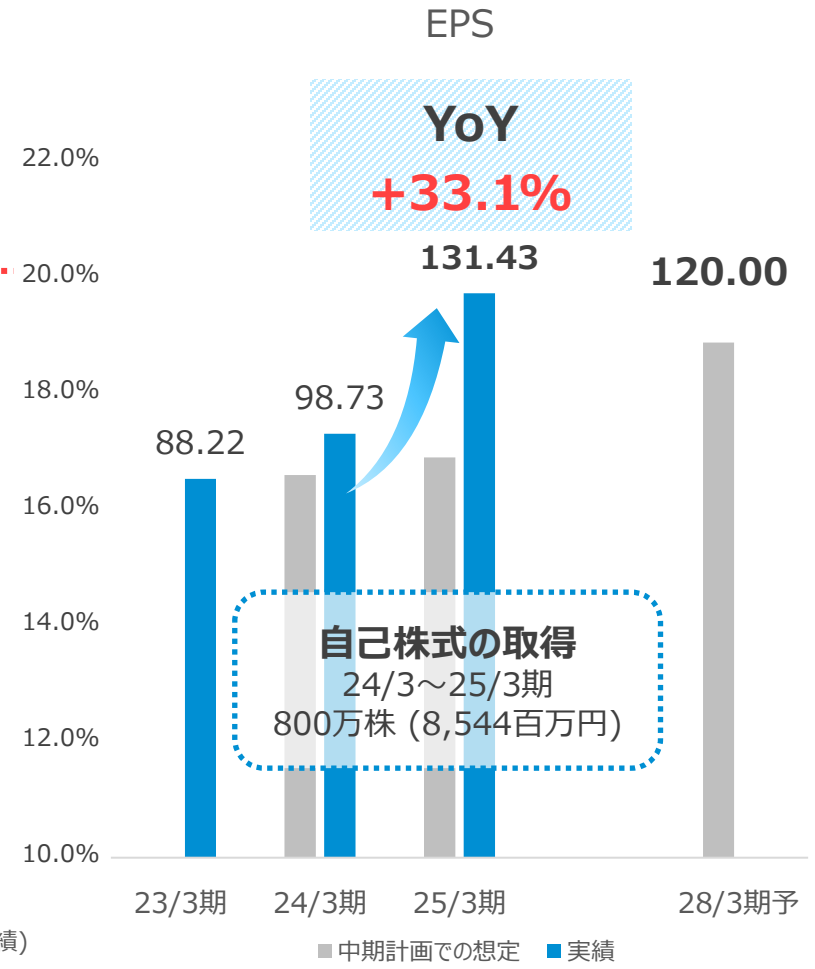
好調の背景

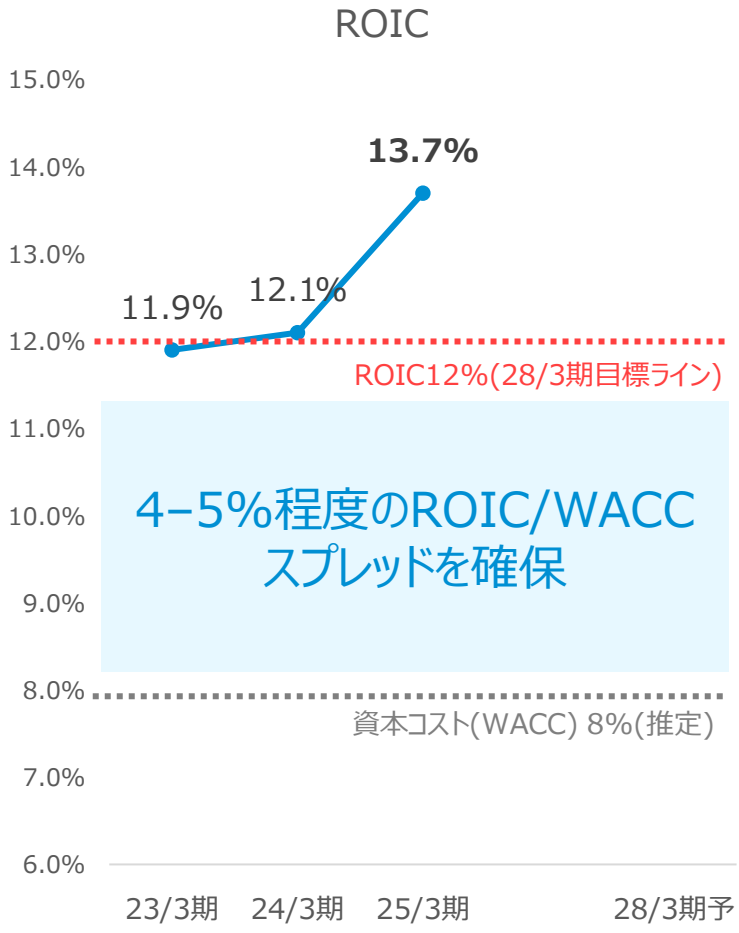
- ✓ 新型コロナ禍終息以降、EP/アブレーションの**症例数が想定より増加**
- ✓ 既存のコア事業で**競合対策が奏功**
- ✓ **新領域**が想定より順調に進捗

数値目標の進捗状況 – 営業利益率・EPS・ROIC

✓ 各KPIは順調に進捗。特に25/3期EPSは、自己株式の取得を進めたこともあり、営業利益の成長率を大幅に上回る＋30%超の成長を達成







1. これまでの振り返り

2. 今後の展望

3. 財務戦略アップデート

さらなる成長フェーズへ － 中期経営計画の目標値を上方修正

1. 5か年計画の最初の2年間の進捗は**当初の想定以上**
   - 今後も、既存・新規事業ともに着実な成長を見込む
2. 中期計画の立案時になかった「**新しい成長戦略**」を加速させる
   - 構造的心疾患領域に経カテーテル生体弁を皮切りに新たに参入
   - 自社製品のグローバル展開を本格的に推進
3. B/Sマネジメントを強化し、**ROICを高水準に保ち、継続的なEPS成長を目指す**
   - 財務レバレッジの活用も含めて、より成長志向な資本政策を推進

中期経営計画(2024/3期～2028/3期) 数値目標

Japan Lifeline

✓ 計画2年目までの進捗と今後の成長戦略を踏まえて、2028/3期の目標値を上方修正

	2025/3期 実績	2028/3期 旧目標 (2023/5設定)	2028/3期 新目標 (2025/5設定)	修正内容	修正の主な理由
売上高	566億円	630億円	**700億円**	**+70億円**	• **AF症例数の想定を上方修正 (5年CAGR6%→9%)** • **グローバル売上高の伸長**
新領域売上高	32億円	80億円	**110億円**	**+30億円**	• **経カテーテル生体弁 (TAVI/TAVR)への参入**
営業利益率	21.8%	20%水準 (毎期)	20%水準 (毎期)	変更なし	–
EPS	131円	120円	**145円**	**+25円**	• 売上高成長に伴う利益成長
ROIC	13.7%	12.0%	**13.0%**	**+1.0pp**	• 粗利率と棚卸資産効率の改善に向けた取組みを推進

今後の事業機会とリスク

✓ 競争や治療トレンド変化のリスクを認識する一方、新たな事業機会を積極的につかみにいく

		(+) 機会	(−) リスク
①新領域	脳血管	• 外科治療から脳血管内治療へのさらなるシフト • フローダイバーター症例数の増加(28/3ごろ参入へ)	
	消化器	• 特長ある自社製品の展開	• 競争激化、国内市場飽和
	構造的心疾患	• **経カテーテル生体弁(TAVI/TAVR)への参入**	
	その他	• **自社カテーテル技術等を活かしたOEM** • **海外市場の開拓**(EP/アブレーション、心血管関連、消化器) • M&A	
②競争力ある製品	リズムディバイス	• リードレスペースメーカ等の新製品ロンチ	• 公定価格下落
	EP/アブレーション	• AF症例数の増加 → 26/3期からの**5年CAGR 9.0%(予想)** • **競争力あるPFA製品の開発**	• **新しい治療法であるPFAの普及に伴う自社製品の売上減少**(食道温カテーテル等)
	心血管関連	• FETの新製品の開発＆導入	• 競争激化

中長期構想タイムライン

従来戦略　新しい戦略

Japan Lifeline

✓ 新しい4つの戦略を推進。中長期の成長ドライバーとして今後取組みを加速



新戦略① 構造的心疾患領域への参入

Japan Lifeline

✓ 印Meril社とTAVI/TAVR製品*1を皮切りに構造的心疾患領域を今後開拓へ

構造的心疾患
Structural Heart Disease (SHD)

心臓の壁や弁などの**構造の異常**に起因する心疾患
→デバイスを用いた**低侵襲なカテーテル治療**が浸透中

弁膜症
(大動脈弁/僧帽弁等など)

経カテーテル生体弁 (TAVI/TAVR)

先天性心疾患
(心房中隔欠損/卵円孔開存など)

- 心房中隔欠損閉鎖器具(ASD)は参入済み(2016年)
- **卵円孔閉鎖器具(PFO)**も今後導入予定
- その他のデバイスも検討中



経カテーテル生体弁
(Meril Life Sciences社製)
「Myval Octacor」
※日本国内未承認品

潜在市場

✓ **1,000億円以上**
(日本)

収益性

✓ 仕入品の中でも**トップクラスの粗利率**を確保

製品の強み

✓ 正確な留置性能
✓ 至適なサイズ選択

製品ロンチ

✓ 27/3期下期予定

*1経カテーテル的大動脈弁植込術（Transcatheter Aortic Valve Replacement/Implantation）

新戦略②　CardioFocus社とのPFA製品の共同開発

Japan Lifeline

2025/2 米CardioFocus社とPFA製品に関する戦略的パートナーシップを締結
２社の強みを生かして競争力あるPFA製品を開発し、グローバル市場での販売を目指す

Japan Lifeline　CARDIOFOCUS

PFA製品の共同開発＆グローバル市場供給

スキーム	構成品	開発	製造	販売
①CF社ブランド「QuickShot」	カテーテル	共同	**当社（OEM輸出）**	当社：日本・韓国・台湾（独占販売） CF社：上記以外
	装置	CF社	CF社	
②自社ブランド	カテーテル	**当社**	**当社（輸出含む）**	当社：欧米除く地域（独占販売） CF社：欧米(優先交渉権)
	装置	共同	CF社	

潜在市場[*1]

- ✓ **日本: 約600～800億円**
- ✓ **世界: $70～120億ドル**

製品の強み

- ✓ 当社の高機能シャフト(高い操作性)
- ✓ CF社の豊富なPFA臨床知見＆装置ノウハウ

マイルストーン

- ✓ CF社製「QuickShot」のOEM供給・輸出(2027年ごろ)
- ✓ CF社製「QuickShot」国内販売
- ✓ 自社ブランド品国内販売・輸出

*1 出所：日本市場は自社推計、世界市場はClarivate

新戦略③　グローバル売上高の拡大

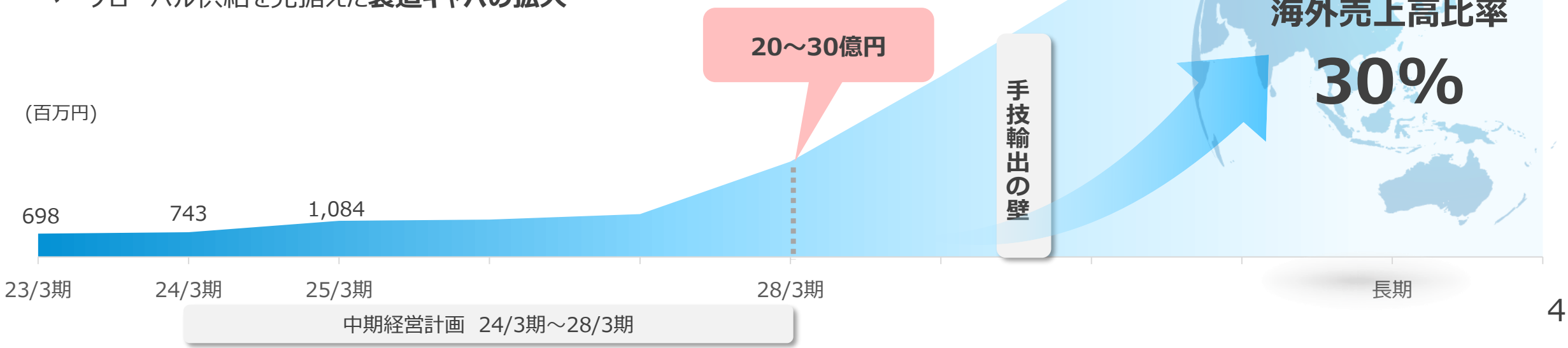
中長期的に除細動カテーテルなどのコア製品の米国輸出を目指す

～28/3期　中東・アジアの販路立上げ（進行中）

- ✓ 国内承認で展開できる中東・アジアの10数か国へ**現地販売代理店を通じた展開**
- ✓ **EP/アブレーション、心血管関連、消化器**の幅広い自社製品が対象
- ✓ FDA承認・CE承認取得のための**QMSR(品質管理システム規制)**への対応
- ✓ グローバル供給を見据えた**製造キャパの拡大**

中長期　欧州・米国市場へ進出

- ✓ 自社製品の**米国FDA/欧州CE承認取得**
- ✓ 国内で圧倒的なシェアと実績を持つ**除細動カテーテルや Frozen Elephant Trunk製品の輸出**
  ⇒日本の最新の知見(手技)を海外に発信・普及させ、市場を開拓



1. これまでの振り返り

2. 今後の展望

3. 財務戦略アップデート

キャッシュアロケーション

重点施策・成長戦略の見直しに伴い、成長の機会と財務状況に基づき、配分を決定。
今後、新領域の拡大、グローバル戦略の拡大を背景に成長投資への分配を高める

今後3期（26/3期～28/3期）のイメージ

キャッシュイン	キャッシュアウト			
営業CF 約300億円	**還元** 120～150億円	**ベース配当** 配当性向40%/DOE5% (いずれか高い方)	上乗せ配当/ 自己株式の取得 (状況に応じて)	変更なし
	設備更新 ～60億円	• 工場設備の更新等（減価償却費並み）		
	成長投資 70～120億円	• **グローバル推進に伴う製造キャパ拡充** • 海外スタートアップへの投資 • IT・インフラ投資やM&A等		今後強化
	成長投資 **(販管費・在庫)** 70～80億円	• **治験費用・薬事申請費用** • **研究開発費用** • 新製品の初期在庫等		

当社の企業価値向上の考え方

資本コストを踏まえたROICの持続的な改善と**EPS(額・成長率)**の達成により、企業価値の最大化を目指す。

	効率的な事業運営	超過利益の創出と株価の上昇
マネジメントKPI	**ROIC** **28/3期目標：13%**	**EPS** (PER) **28/3期目標：145円**
打ち手	✓ **資本コスト**と期待リターンを踏まえた**キャッシュ・アロケーション**の実行 ✓ 新規投資や開発のモニタリング強化 ✓ 在庫・資産の管理強化	✓ **成長戦略**の実行 ✓ 投資家との対話を通じた**適切な市場評価の獲得(PER)** ✓ **業績達成インセンティブ**

資本コストの把握

自社の**資本コストは8%水準と推定**。投資家様とのIR面談の中で資本コストに関する対話を行い、8%水準は違和感がないことを確認

株主資本コスト	=	リスクフリーレート	+	ベータ	×	エクイティリスクプレミアム	−	リスクフリーレート	+	流動性プレミアム
推定7.2～9.3%		1.5%		0.85～1.05		7.0%		1.5%		1.0～2.0%

当社の資本コストの考え方

- 時価株主資本に対して有利子負債金額は僅少であるため、WACC≒株主資本コストと仮定
- ベータ値は一定の振れ幅があることを前提にレンジで想定
- 1日当たり平均売買代金2～3億円。
  ⇒流動性プレミアムを1.0～2.0%で想定



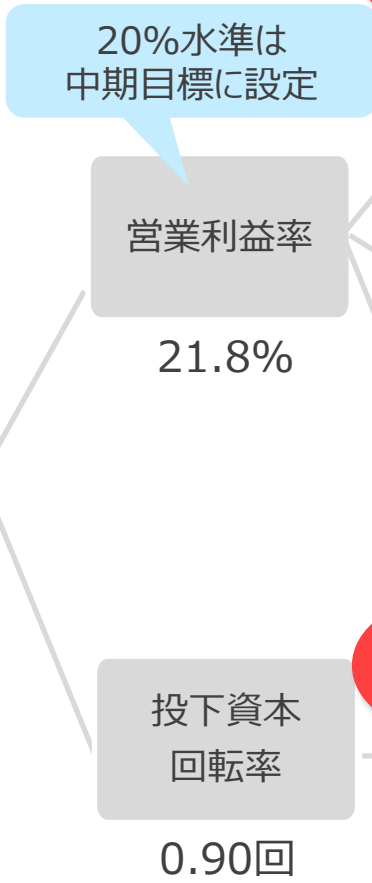
- ✓ 投資家様とのIR面談の中で、資本コストの水準感について対話を実施。
- ✓ 流動性プレミアムについては、投資家様によって認識に幅があるものの、**資本コストとしては8%水準で概ね違和感がないことを確認**

ROICの持続的な改善

Japan Lifeline

売上総利益率と棚卸資産回転率をROIC改善の余地が大きい重要ドライバーと定義。
PDCAサイクルを回し、ROICの持続的な改善(中期目標：13%)に取り組む



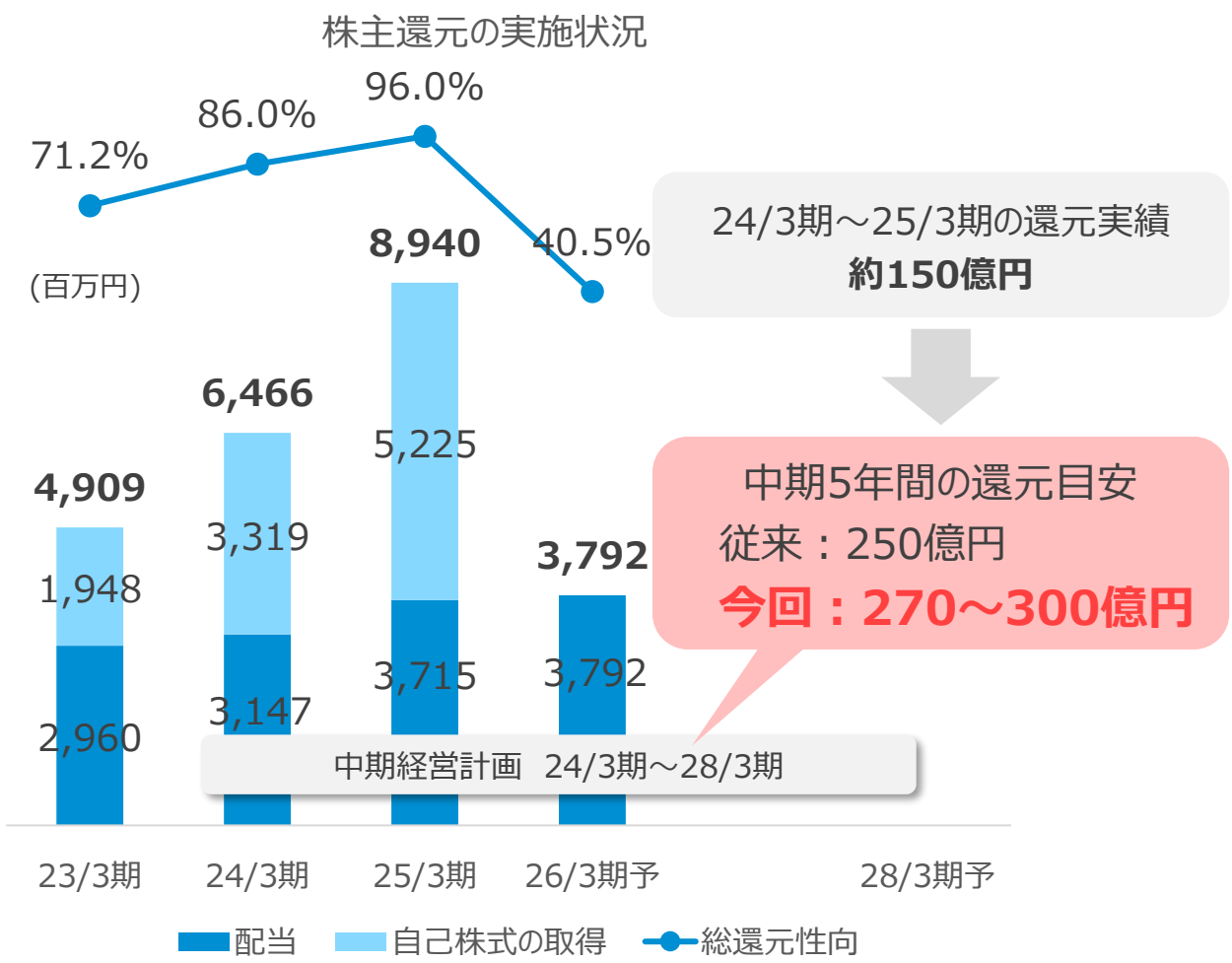


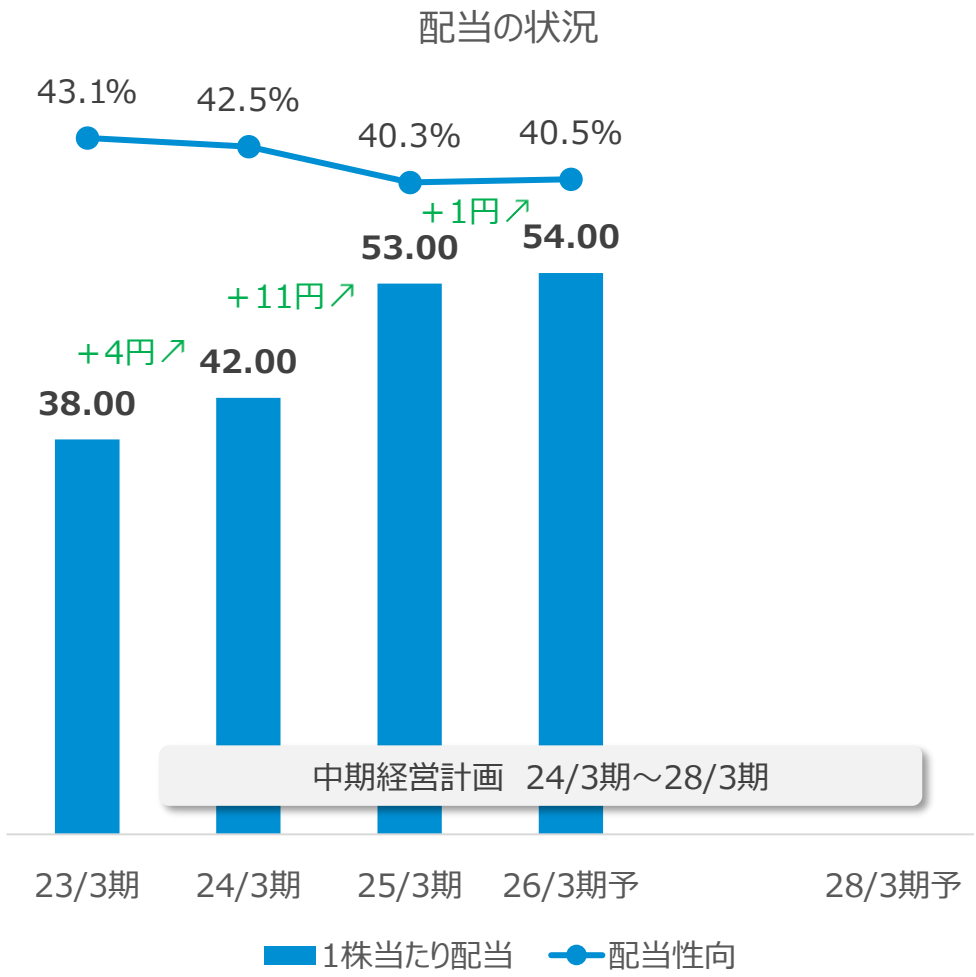
重点取組	ドライバー	25/3期	施策
	売上総利益率	60.4%	**中期では仕入品の伸長があるが、57～59%台を維持** • 高い粗利率を確保できるビジネスパートナーとの関係深化 • 原価低減活動の推進 • 海外売上高の拡大(自社製品比率↗)
	販管費率	38.6%	• 35～38%を目安にコントロールする
	収益性の高い新規事業開発	ハードルレート 10～15%	• 新規開発委員会などの社内モニタリング機関で案件の精査を強化(既に取組み中)
重点取組	棚卸資産回転期間	283日	**250日程度への安定化を目指す** • 仕入・生産・在庫管理・物流・病院預託・滅菌切れ廃棄削減等の**サプライチェーン改革**を推進

各数値は25/3期

株主還元

2028年3月期の目標値の上方修正に伴い、還元目標額も上方修正





株価を意識した経営の推進

EPS成長を株価の上昇に結び付ける。将来的に、**「グローバル医療機器メーカー」として市場平均以上の評価をいただくこと**を目標として、事業活動とIR活動を推進

	現状 (25/3/31) 株価1,528円	中期 (～28/3期)	長期
市場からの評価	業績横ばいから成長軌道に戻りつつある	グローバル医療機器メーカーへの過渡期	**グローバル医療機器メーカー**
PER (現状/目標)	11～12倍	15～18倍	**20倍以上**
PBR (現状/目標)	約1.8倍	2～3倍	**3倍以上**

ベンチマークしているグローバルな事業展開を行う国内の医療機器10社*1
平均PER22.9倍、平均PBR2.6倍 (2025/4時点)

株価を意識した経営の推進

- ✓ **中長期ビジョンの実現**
  (EPSの持続的成長)
- ✓ **IRの強化**
  (目標PERの実現)
- ✓ **業績達成インセンティブの活用**
  (攻めのガバナンスの推進)

*1 HOYA、テルモ、富士フイルム、オリンパス、シスメックス、島津製作所、朝日インテック、日本光電、ニプロ、マニーの10社

本日の内容

1. 2025年3月期 通期決算
2. 2026年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

本日の内容

1. 2025年3月期 通期決算
2. 2026年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

2025/3期 Q4(1～3月)連結P/L

Japan Lifeline

✓ 営業利益は研究開発費の支出により減益。当期利益は複数の特殊アイテムにより増益

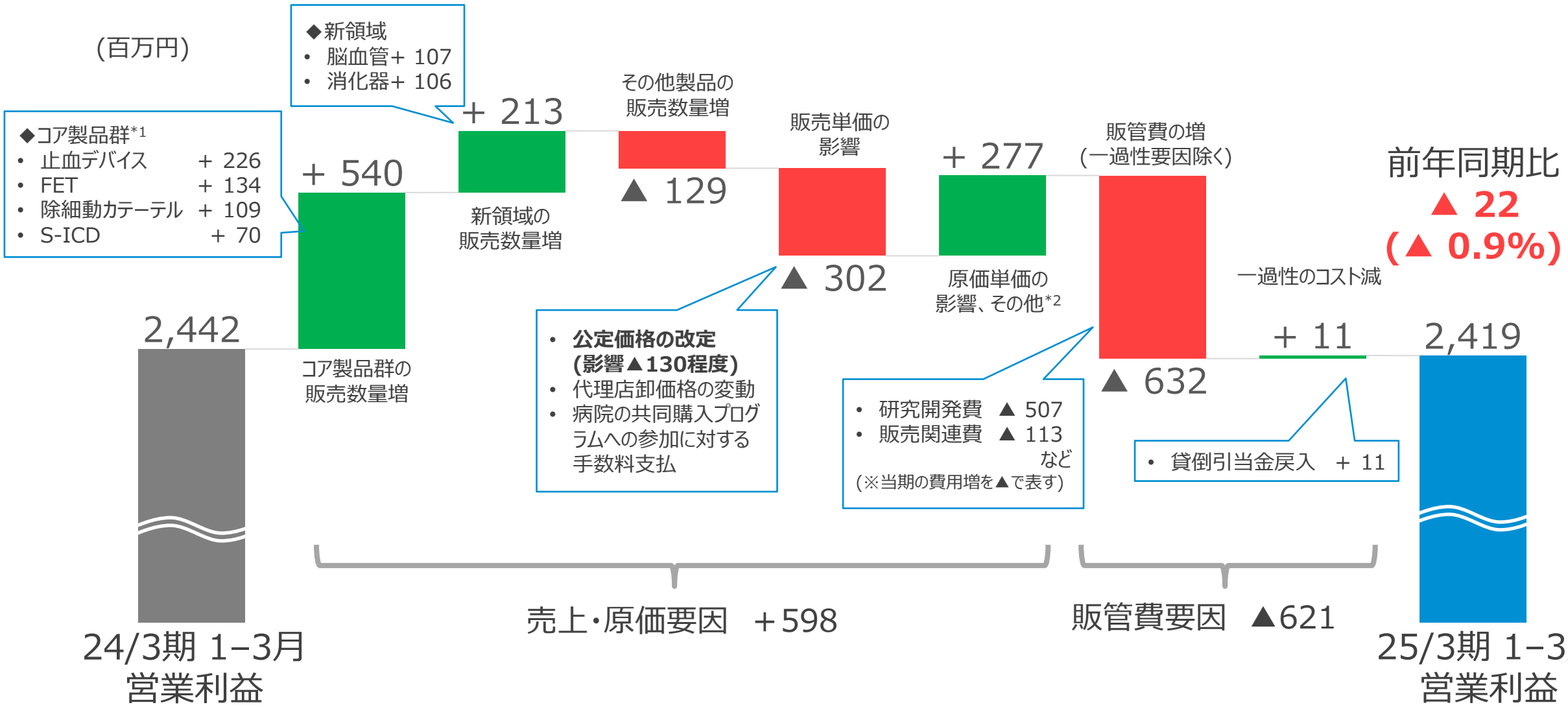
(百万円)	2024/3期 1–3月	2025/3期 1–3月	前年同期比	前年同期比%	コメント
売上高	13,081	13,799	+ 717	+ 5.5	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	7,681	8,280	+ 598	+ 7.8	(+) 在庫の廃棄損・評価損減少 (▲201M) ※M=百万
%	58.7%	60.0%		+ 1.3pp	(−) 公定価格の下落
販管費	5,239	5,860	+ 621	+ 11.9	次ページで詳細説明
営業利益	2,442	2,419	▲ 22	▲ 0.9	次ページで詳細説明
%	18.7%	17.5%		▲ 1.2pp	
当期純利益	1,342	2,246	+ 903	+ 67.3	(+) 前年同期に投資有価証券評価損[*1](504M)
%	10.3%	16.3%		+ 6.0pp	(−) 固定資産除却損の計上(360M)[*2] (+) 繰延税金資産の計上(351M)[*3]
自社製品比率	58.4%	56.7%		▲ 1.7pp	(−) 脳血管、止血デバイスの拡大
海外売上高比率	1.2%	1.7%		+ 0.5pp	
1株当たり利益	17.64円	32.05円	+ 14.42円	+ 81.7	(+) 発行済株式数[*4]の減少

*1 投資先ベンチャーが事業化の見直しに伴い増資を行い、当社の持株に希薄化が生じた *2 内視鏡レーザーバルーンのコンソールの除却 *3 投資有価証券の評価損に係る一時差異が予測可能な期間内に解消する可能性が高くなったことによる繰延税金資産の計上 *4 期中平均・自己株式を除くベース

2025/3期 Q4(1～3月)営業利益の増減分析

Japan Lifeline

✓ PFAシステム関連の研究開発費が発生し、わずかに営業減益



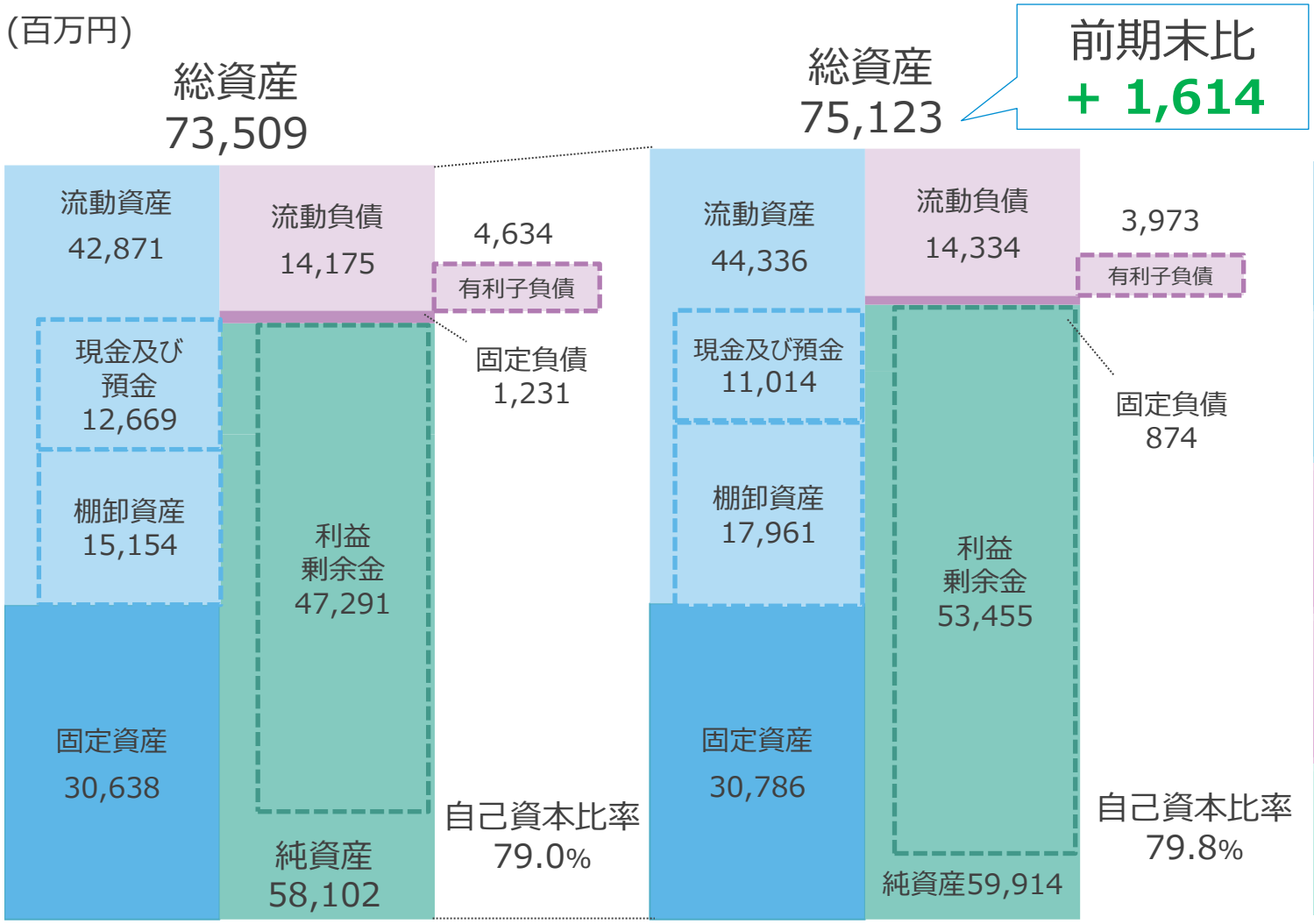
*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 製品廃棄・評価損の影響等を含む

2025/3期 B/Sサマリ（対前期末）

Japan Lifeline

✓ 前期末より棚卸資産等が増加し、バランスシートは拡大

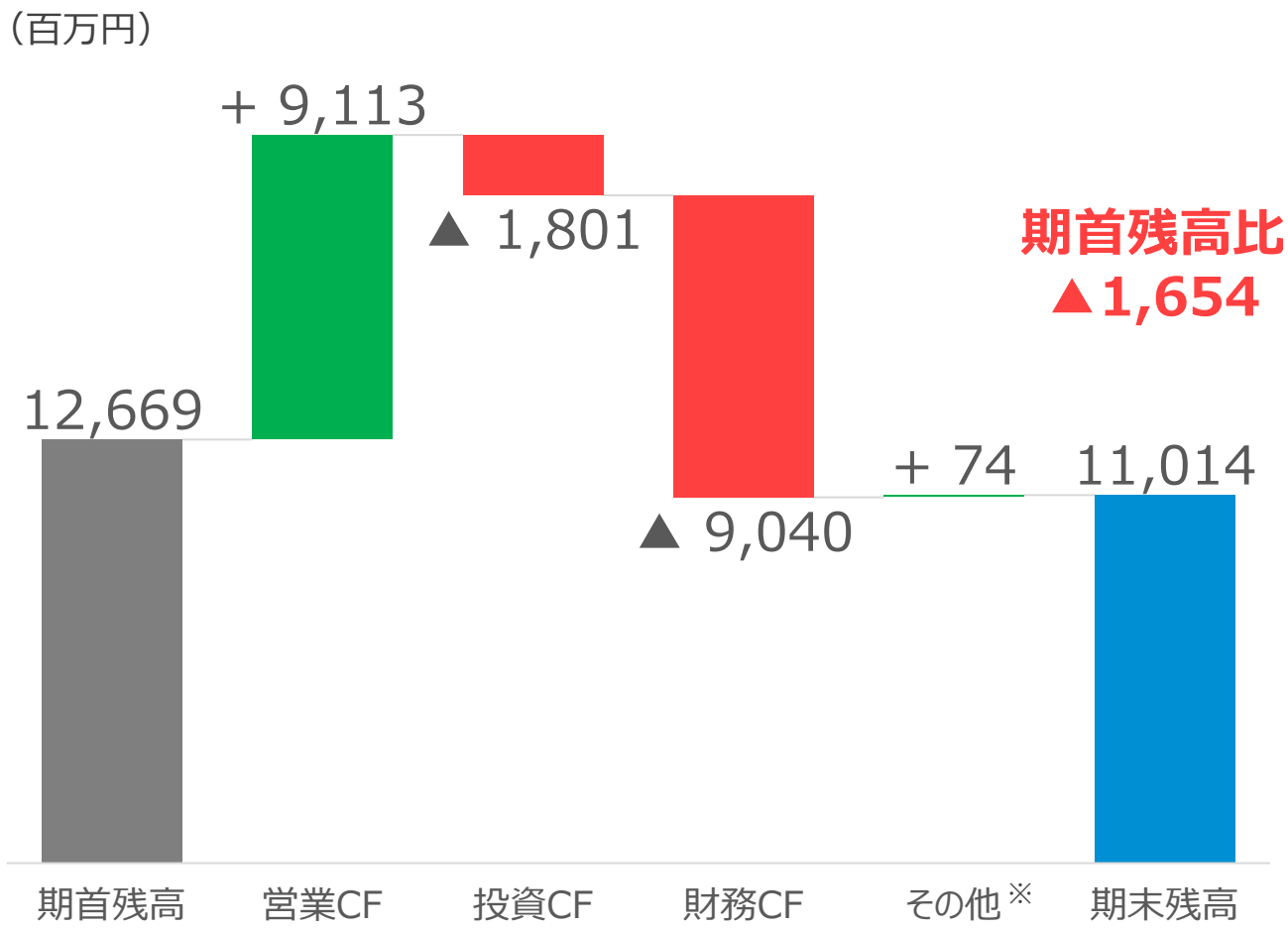
(百万円)



(百万円)	前期末比	変動の主な要因
流動資産	+ 1,465	• 棚卸資産＋2,806 • 売上債権＋546 • 現金及び預金▲1,654
固定資産	+ 148	• 退職給付に係る資産＋336 • 繰延税金資産＋244 • 無形固定資産▲382 • 投資有価証券▲226
流動負債	+ 158	• 未払消費税＋494 • 1年以内長期借入金▲296
固定負債	▲ 356	• リース負債▲239 • 長期借入金▲120
純資産	+ 1,812	• 利益剰余金＋6,163 • 為替換算調勘定＋440 • 自己株式▲5,027

2025/3期 連結キャッシュフロー（通期）

✓ 期末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から▲1,654百万円減少



※ 現金及び現金同等物に係る換算差額

■営業CF +9,113百万円

【増 加】	• 税金等調整前当期純利益	+12,024
	• 減価償却費	+1,779
【減 少】	• 法人税等の支払額	▲3,069
	• 棚卸資産の増加	▲2,801

■投資CF ▲1,801百万円

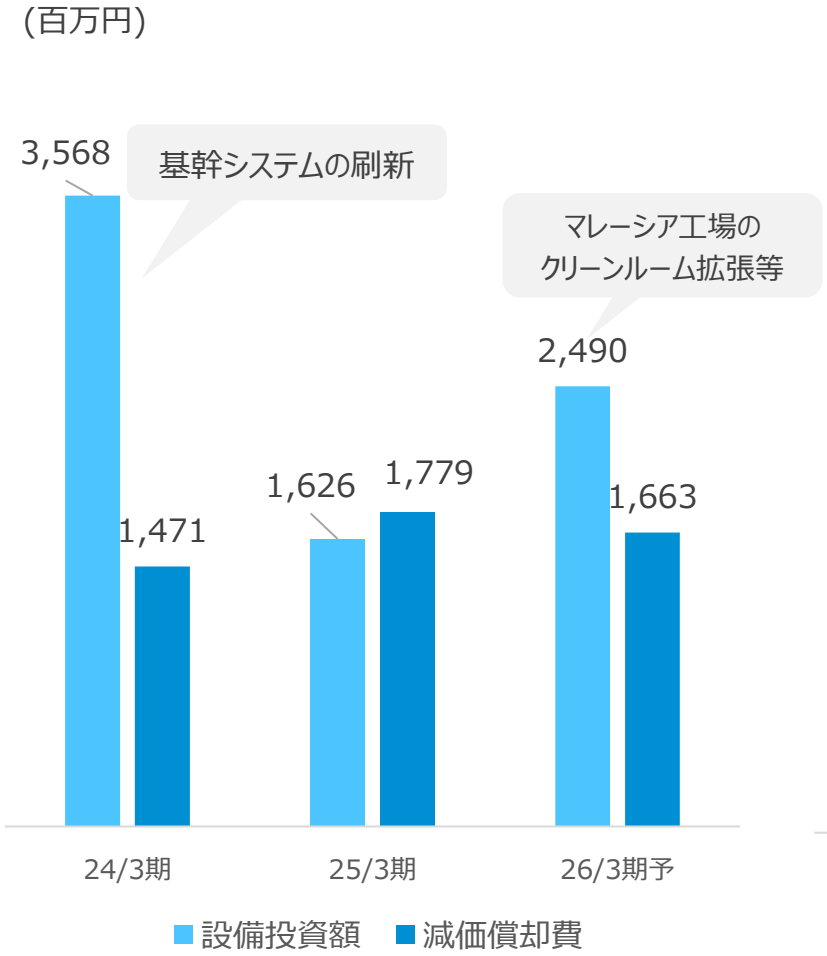
【増 加】	• 投資有価証券の売却	+1,040
【減 少】	• 有形固定資産の取得	▲1,550
	• 投資有価証券の取得	▲892
	• 長期前払費用の取得	▲386

■財務CF ▲9,040百万円

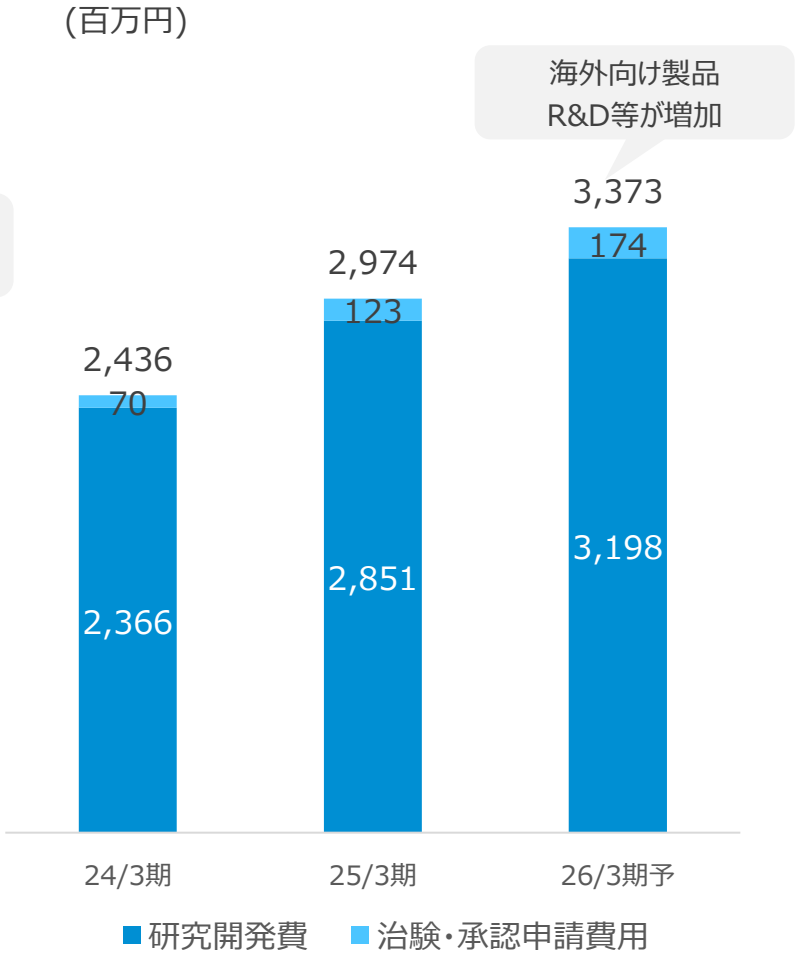
【減 少】	• 自己株式の取得	▲5,225
	• 配当金の支払	▲3,154
	• 有利子負債の返済	▲661

2026/3期 設備投資額/減価償却費/研究開発投資/従業員数

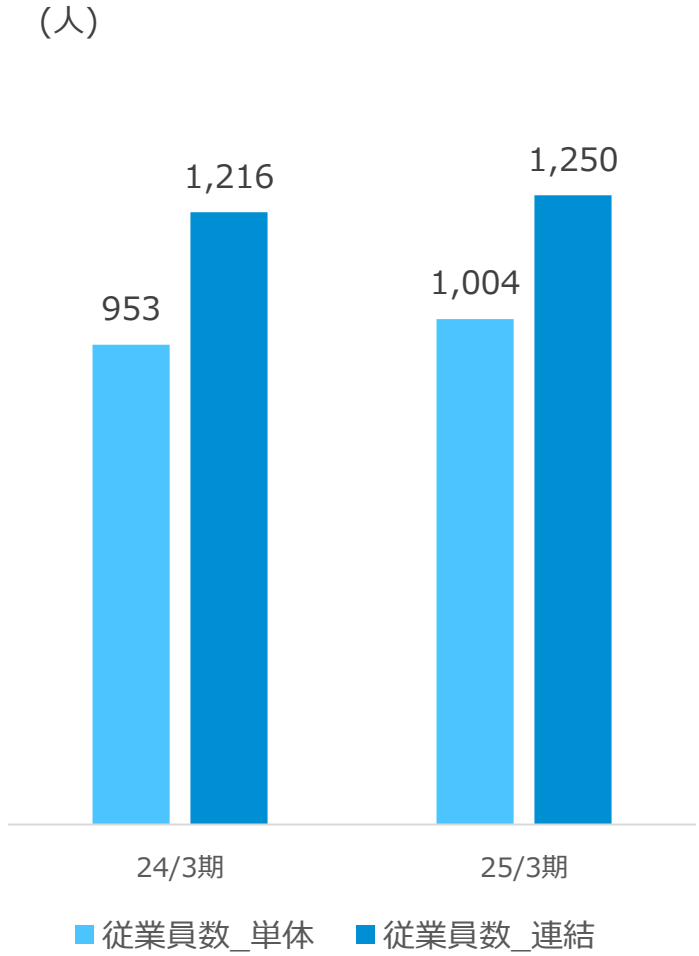
設備投資と減価償却費*1



研究開発投資



従業員数



*1 2024/3期から減価償却方法を定率法から定額法に変更

品目別売上高の詳細

Japan Lifeline

(百万円)		24/3期					25/3期					26/3期		
		Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	上期予	下期予	通期予
ペースメーカ関連	ペースメーカ、CRT-P、リード	1,344	1,208	1,371	1,316	5,241	1,381	1,098	1,114	911	4,506	2,160	1,980	4,140
ICD関連	S-ICD, CRT-D、リード	1,994	1,917	2,009	1,936	7,857	1,978	2,035	2,171	2,111	8,296	4,320	3,890	8,210
その他	AED	108	98	91	104	402	109	121	107	125	464	400	480	880
リズムディバイス		**3,446**	**3,224**	**3,472**	**3,356**	**13,501**	**3,469**	**3,256**	**3,393**	**3,148**	**13,267**	**6,880**	**6,350**	**13,230**
前年比%		*+11.4*	*+0.8*	*+12.5*	*+11.1*	*+8.9*	*+0.7*	*+1.0*	*▲2.3*	*▲6.2*	*▲1.7*	*+2.3*	*▲2.9*	*▲0.3*
EPカテーテル	心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、食道温カテーテル	5,578	5,213	5,244	5,175	21,211	5,971	5,711	5,766	5,093	22,543	11,680	11,730	23,410
ABLカテーテル	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」	228	187	200	223	840	204	187	153	102	647	215	195	410
その他	止血デバイス、スティーラブルシース	465	470	564	696	2,197	925	1,122	1,310	1,296	4,654	2,705	2,620	5,325
EP/アブレーション		**6,272**	**5,872**	**6,009**	**6,095**	**24,249**	**7,101**	**7,021**	**7,229**	**6,492**	**27,845**	**14,600**	**14,545**	**29,145**
前年比%		*▲5.9*	*▲7.5*	*▲7.0*	*▲10.6*	*▲7.8*	*+13.2*	*+19.6*	*+20.3*	*+6.5*	*+14.8*	*+3.4*	*+6.0*	*+4.7*
人工血管関連	フローズンエレファントトランク、人工血管、腹部ステントグラフト	2,639	2,441	2,949	2,926	10,956	2,686	2,720	3,204	3,077	11,688	5,590	6,540	12,130
その他	心房中隔欠損閉鎖器具	78	133	120	117	449	97	151	135	132	517	280	240	520
心血管関連		**2,718**	**2,574**	**3,069**	**3,044**	**11,406**	**2,784**	**2,871**	**3,339**	**3,210**	**12,206**	**5,870**	**6,780**	**12,650**
前年比%		*+5.0*	*+4.5*	*+6.7*	*+7.0*	*+5.9*	*+2.5*	*+11.5*	*+8.8*	*+5.5*	*+7.0*	*+3.8*	*+3.5*	*+3.6*
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、ステントリトリーバー	135	218	269	289	912	347	452	491	550	1,842	1,045	1,215	2,260
脳血管関連		**135**	**218**	**269**	**289**	**912**	**347**	**452**	**491**	**550**	**1,842**	**1,045**	**1,215**	**2,260**
前年比%		*+473.3*	*+537.9*	*+270.1*	*+191.1*	*+296.7*	*+157.5*	*+107.0*	*+82.5*	*+90.1*	*+101.9*	*+30.6*	*+16.6*	*+22.7*
消化器関連	胆管チューブステント、大腸ステント、肝がんニードル	220	223	238	242	925	273	324	350	396	1,345	840	1,055	1,895
その他	終了事業（コロナリー・インターベンション、旧PI関連）	161	63	110	53	388	33	48	20	0	103	65	55	120
消化器		**381**	**287**	**349**	**296**	**1,314**	**307**	**373**	**371**	**397**	**1,448**	**905**	**1,110**	**2,015**
前年比%		*▲36.4*	*▲39.3*	*▲31.4*	*▲36.3*	*▲35.8*	*▲19.6*	*+29.9*	*+6.4*	*+34.1*	*+10.2*	*+33.0*	*+44.4*	*+39.1*
連結売上高		**12,954**	**12,177**	**13,170**	**13,081**	**51,384**	**14,010**	**13,974**	**14,825**	**13,799**	**56,610**	**29,300**	**30,000**	**59,300**
前年比%		*▲0.1*	*▲2.7*	*+1.2*	*▲1.3*	*▲0.7*	*+8.2*	*+14.8*	*+12.6*	*+5.5*	*+10.2*	*+4.7*	*+4.8*	*+4.8*

事業環境 現時点から6か月先の見通し

Japan Lifeline

✓ 売上高のQ単位のトレンドを矢印で表す。前回の見通しに変更がある場合は、コメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2025/3期 Q4 実績		2026/3期 Q1 予想		2026/3期 Q2 予想	
		営業日数：57		営業日数：62		営業日数：62	
リズムディバイス	ペースメーカ関連	↘	他社リードレスの拡大 **営業日数影響(以下共通)**	↗	前Qから大きな変化なし **営業日数影響(以下共通)**	→	前Qから大きな変化なし
	ICD関連	→ 前回：↘	S-ICD好調	→ 前回：↗	他社新型ICD拡大、交換症例減少	→	前Qから大きな変化なし
EP/アブレーション	EPカテーテル	↘	AF症例YoY+約10%、PFA症例の拡大による食道カテーテル等の減少	↗	前Qから大きな変化なし	→	前Qから大きな変化なし。
	ABLカテーテル	↘	HeartLightX3低調	→ 前回：↘	前Qから大きな変化なし	→	前Qから大きな変化なし
	その他	→	止血デバイス続伸	↗ 前回：→	止血デバイス伸長。スティーラブルシースの拡販注力	→	前Qから大きな変化なし
心血管関連	人工血管関連	→	FETの市場拡大、季節性の増	↘	季節性の減。FETの市場拡大	→	前Qから大きな変化なし
脳血管関連	脳血管関連	↗	血栓吸引カテーテル、ステントリトリーバーの販売拡大	↘ 前回：→	季節性の減(1～2月と7～8月頃にピーク)、血栓吸引カテの細径モデル追加	↗	季節性の増。ステントリトリーバーの新モデル追加。コイルの販売診療科拡大
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	↗	肝がんニードル一括納入、新製品・再上市品の寄与	→	胆膵製品への営業リソース集中、各新製品伸長。前Qに一括納入の影響	↗	前Q継続。チューブステントの新モデル追加

凡例：↗ 前Qより増加 環境はポジティブ　→ 前Qから横ばい 環境はポジティブ　↘ 前Qより減少 環境はネガティブ　→ 前Qから横ばい 環境はネガティブ

略語一覧

AF	Atrial Fibrillation	心房細動
ASD	Atrial Septum Defect	心房中隔欠損症
CAGR	Compound Annual Growth Rate	年平均成長率
CAPM	Capital Asset Pricing Model	資本資産価格モデル
CE	Conformité Européenne	EU地域で販売される指定製品に貼付を義務付けられる安全マークのこと
CI	Coronary Intervention	冠動脈インターベンション
EPS	Earnings Per Share	1株当たり純利益
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography	内視鏡的逆行性胆管膵管造影
EVAR	Endovascular Aortic Repair	腹部大動脈ステントグラフト内挿術
FDA	Food and Drug Administration	アメリカ食品医薬品局
FET	Frozen Elephant Trunk	（外科手術で使用される）ステントグラフト付きの人工血管
ICD	Implantable Cardiac Defibrillator	植込み型除細動器
IVC	Inferior Vena Cava	下大静脈
OEM	Original Equipment Manufacturing	相手先ブランド製造
PER	Price Earnings Ratio	株価収益率
PFA	Pulsed Field Ablation	パルスフィールドアブレーション
PFO	Patent Foramen Ovale	卵円孔開存
QMSR	Quality Management System Regulation	品質マネジメントシステム規制
RF	radiofrequency	ラジオ波高周波
ROIC	Return on Invested Capital	投下資本利益率
R＆D	Research and development	研究開発
TAVI/TAVR	Transcatheter Aortic Valve Implantation/Transcatheter Aortic Valve Replacement	経カテーテル的大動脈弁植込術/経カテーテル的大動脈弁置換術
WACC	Weighted Average Cost of Capital	加重平均資本コスト

本日の内容

1. 2025年3月期 通期決算
2. 2026年3月期 通期業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

こちらでファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

―当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、こちらからご覧いただけます。

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

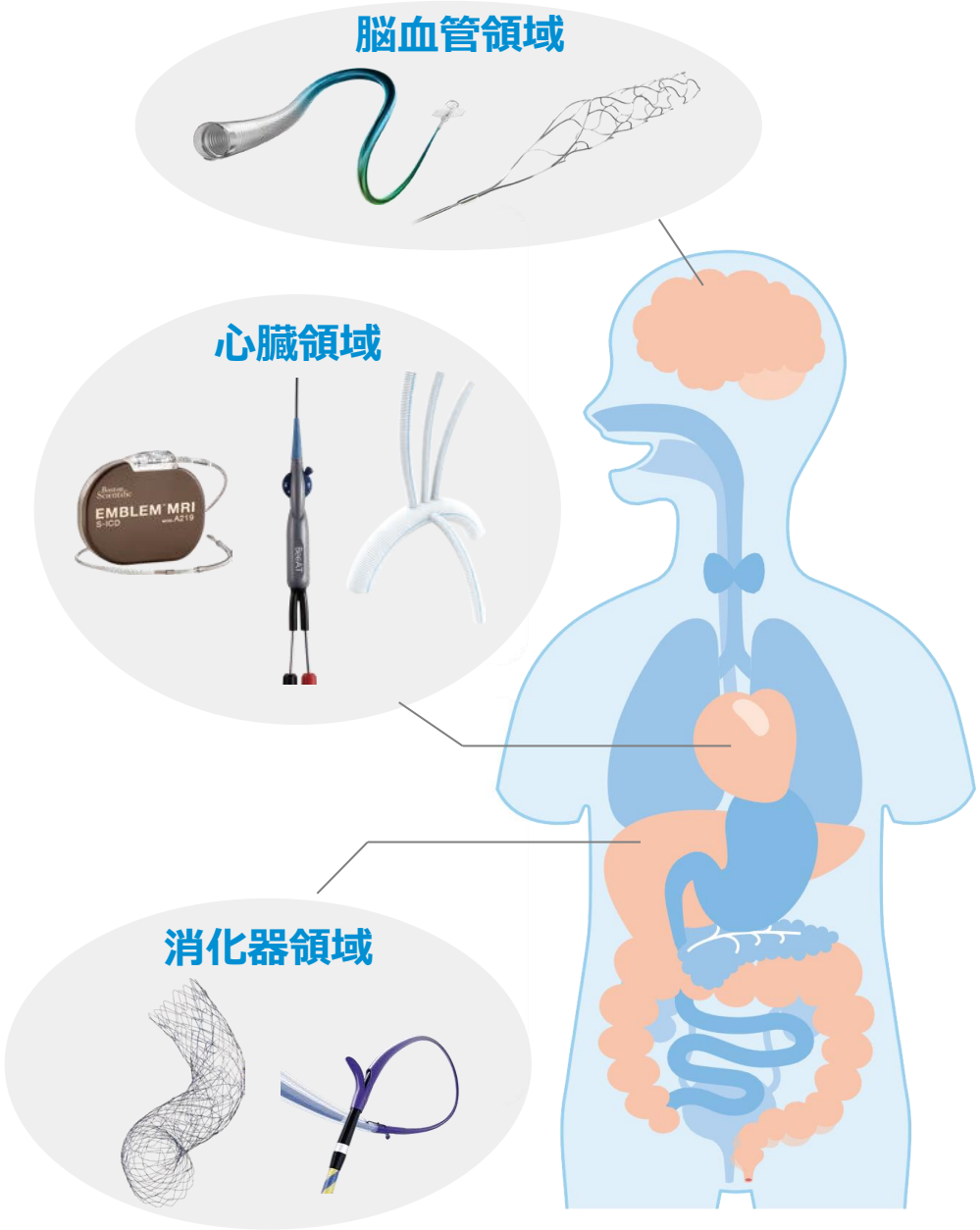
◆「インベスターズガイド」とは？

―当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、こちらからご覧いただけます。

日本ライフラインとは

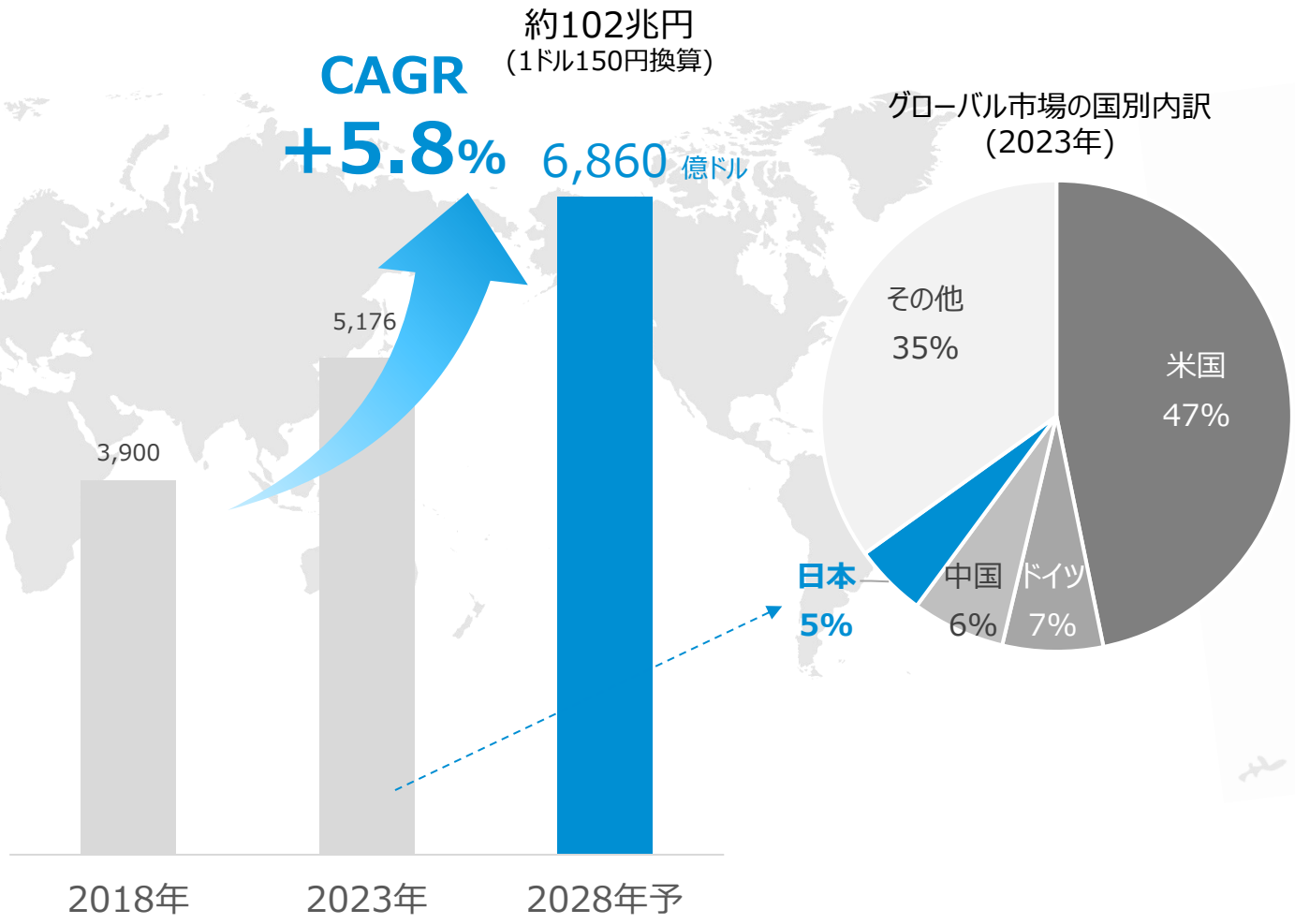
- **心臓領域**の医療機器で**ニッチトップ**
- 生命に関わる**高度管理医療機器**を扱う
- **高利益**(営業利益率20%+)と**高成長**を実現



成長トレンドにある医療機器産業

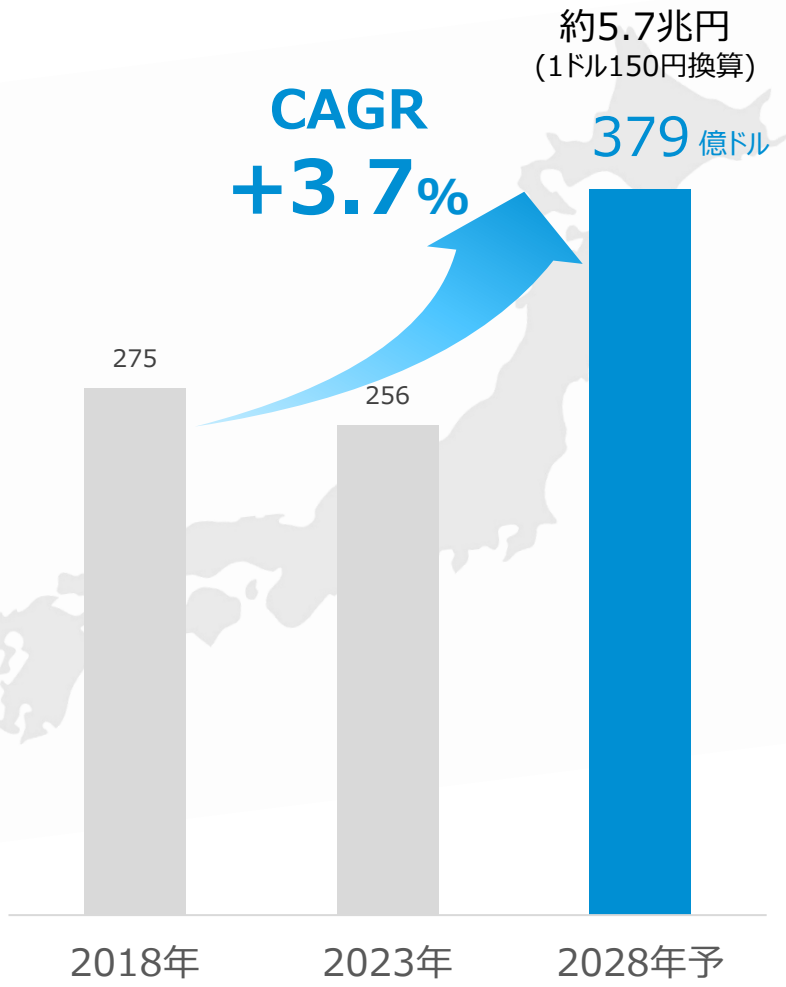
高齢化や医療技術の進歩で、グローバル/国内ともに医療機器市場は拡大する見通し

グローバル医療機器市場(億ドル)



出所：医療機器産業ビジョン研究会「医療機器産業ビジョン2024」および自社推計

国内医療機器市場(億ドル)

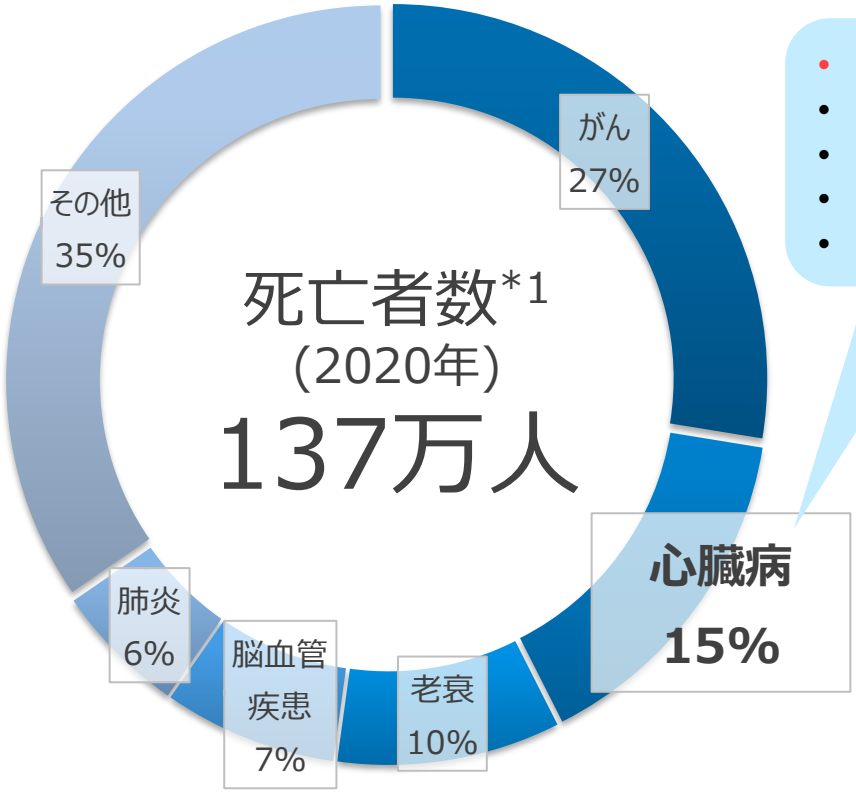


出所：医療機器産業ビジョン研究会「医療機器産業ビジョン2024」および自社推計

高齢化社会と心臓病

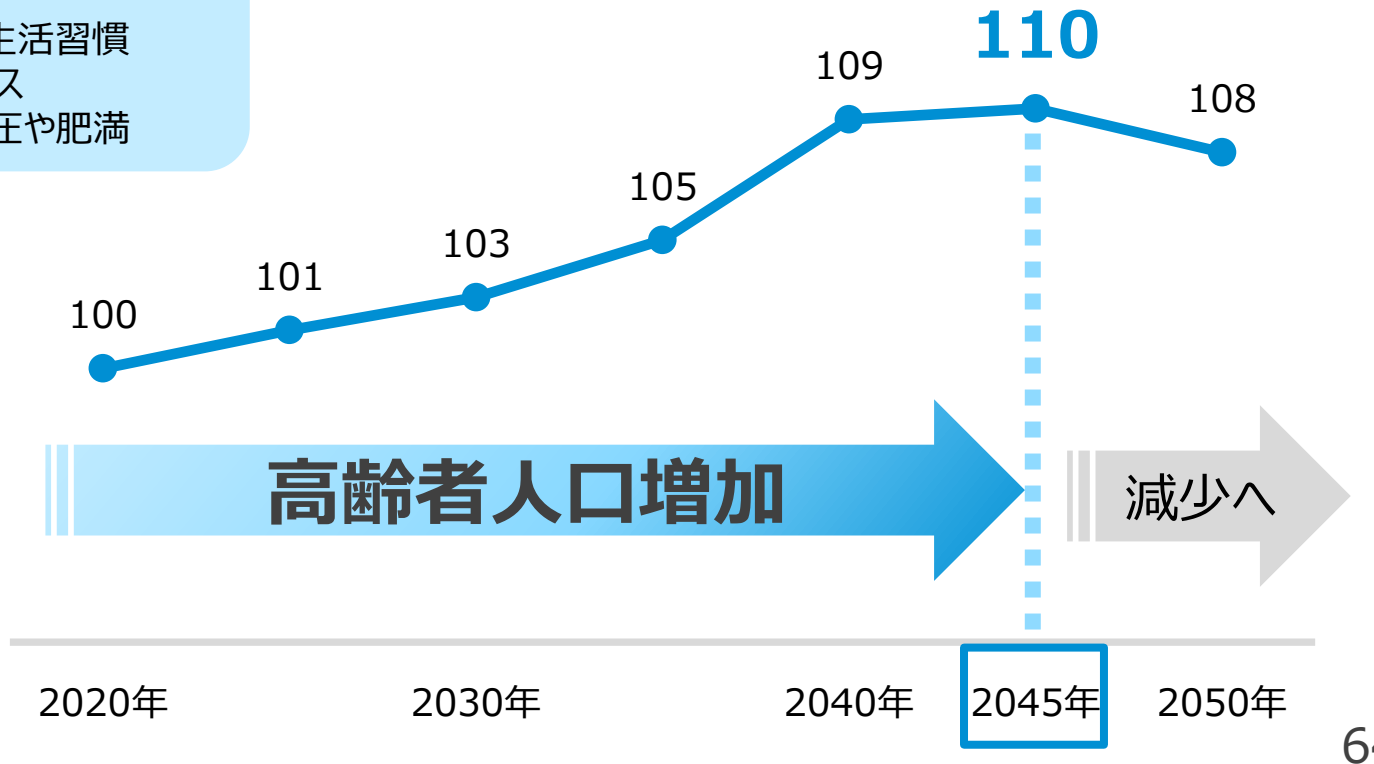
高齢者の人口増加とともに、今後20年は心臓病関連の医療需要は増加する見通し

国内の死因トップ5*1



- **加齢(最大因子)**
- 喫煙
- 悪い生活習慣
- ストレス
- 高血圧や肥満

65歳以上人口の推移予測
(2020年＝100として指数化)*2



*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計
*2 内閣府　令和5年(2023年)版高齢社会白書

日本ライフラインのあゆみ

心臓領域に特化した商社とメーカーのハイブリッド・カンパニーとして、大きく成長

■ 売上高-自社品
■ 売上高-仕入品

✓ターニングポイント：自社製造を開始
- 1999/3期　画期的な商品(ステント)の取扱いを開始し、大きく売上を伸ばす
- しかし、翌年度、仕入先が他社に買収され、販売権を喪失(売上大幅減)

⇒**商社だけでなく自社製造も行い、事業リスクの低減へ**



オンリーワン自社製品
Frozen Elephant Trunk

自社製品比率
24/3期 **58.8%**

513

630億円



オンリーワン自社製品
心腔内除細動カテーテル

自社製造の開始

ペースメーカの
輸入販売(祖業)

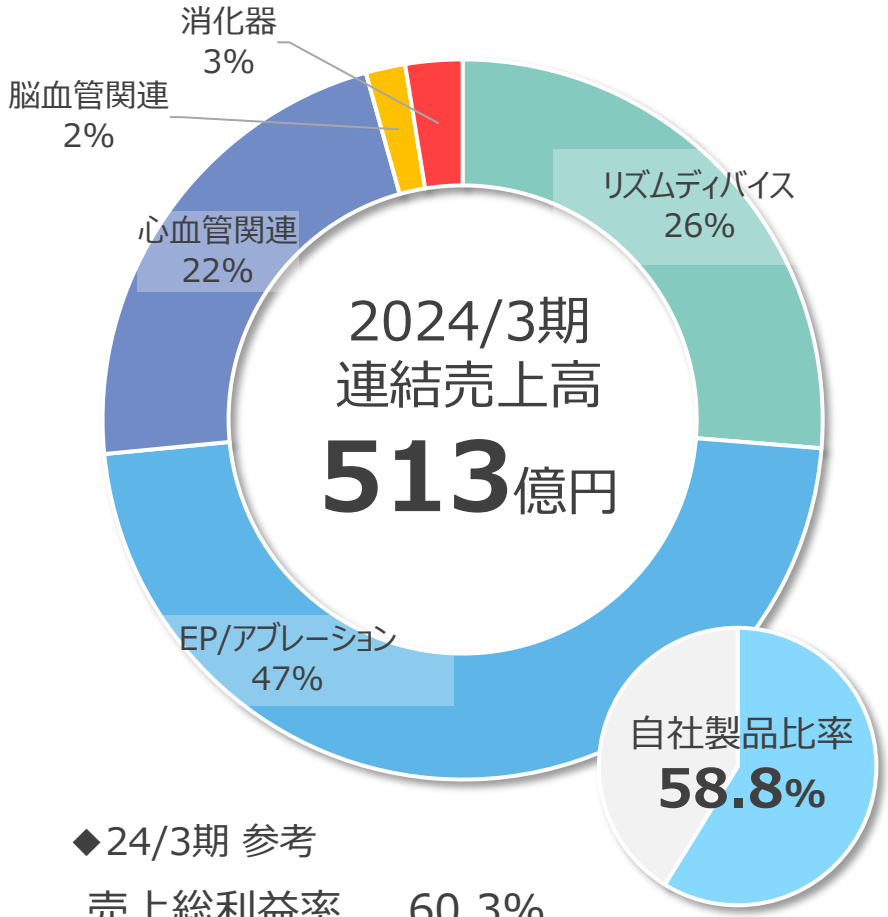
'81/12 '82/12 '83/12 '84/12 '85/12 '86/12 '87/12 '88/12 '89/12 '90/12 '91/12 '93/3 '94/3 '95/3 '96/3 '97/3 '98/3 '99/3 '00/3 '01/3 '02/3 '03/3 '04/3 '05/3 '06/3 '07/3 '08/3 '09/3 '10/3 '11/3 '12/3 '13/3 '14/3 '15/3 '16/3 '17/3 '18/3 '19/3 '20/3 '21/3 '22/3 '23/3 '24/3 '25/3 '26/3 '27/3 '28/3

中期経営計画

商社	商社＋メーカー	**商社＋グローバルメーカー**
1981–2000年	2001–2023年	2024年–
海外の優れた医療を日本へ	医師のニーズに応え医療機器を自社製造し、独自の付加価値を創出	**成長領域の拡大**

事業領域

メイン領域は心臓疾患(全体の95%)、近年は脳血管や消化器などの新領域にも進出中



◆24/3期 参考

売上総利益率	60.3%
営業利益率	21.2%

		対象疾患	主な製品	自社製品比率	事業の位置づけ
心臓	リズムディバイス	不整脈(体内植込みデバイス)	ペースメーカやICD 	0%	安定事業
心臓	EP/アブレーション	不整脈(心房細動のカテーテル治療)	心腔内除細動カテーテル 	80%	中核事業
心臓	心血管関連	大動脈瘤 大動脈解離	人工血管 	60%	中核事業
新領域(心臓以外)	脳血管関連	脳梗塞 脳動脈瘤	塞栓用コイル 	0%	成長事業
新領域(心臓以外)	消化器	胆管狭窄等	胆管チューブステント 	95%	成長事業

強み①　メーカーの製品力　×　商社の目利き力

メーカー機能で安定した競争基盤を構築しつつ、商社機能で戦略的商品をスピーディーに導入し、ポートフォリオを補完する。これにより、ポートフォリオ全体で高い競争力を維持

メーカー



- 独自技術で医師が操作しやすい機器を製造
- 心臓領域に特化 (消化器領域にも応用中)
- 毎回の手術で使うベーシックなラインナップを網羅

商社



- 海外の革新的な機器を素早く国内に導入
- 長期独占販売契約
- 戦略的に自社製品ポートフォリオのすき間を埋める

トップシェアの製品を多く保有

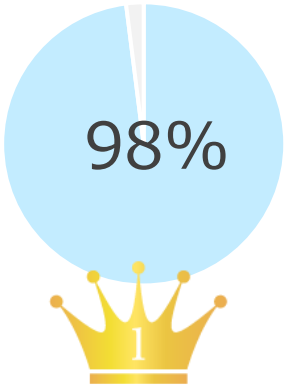
メーカーと商社のそれぞれで高い市場シェア*1を獲得

メーカー

心腔内除細動カテーテル



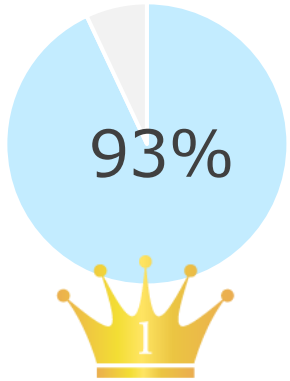
国内シェア



Frozen Elephant Trunk



国内シェア

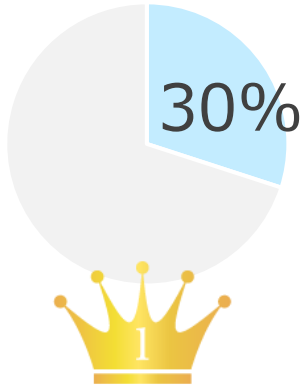


商社

ICD



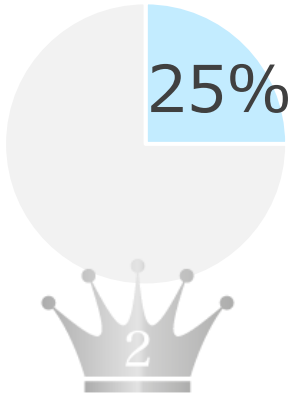
国内シェア



ステントグラフト



国内シェア



*1 市場シェアは2024年6月時点での自社推計

強み②　業界No.1の販売力

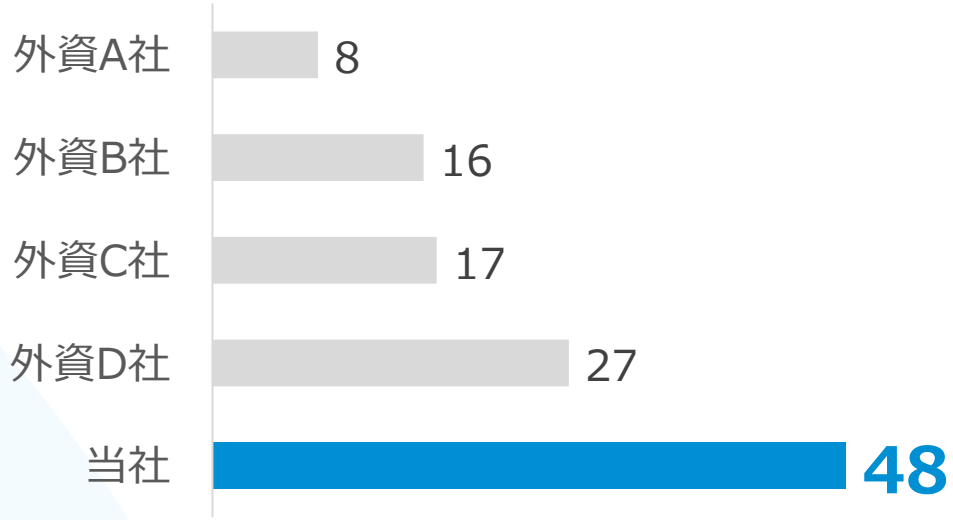
業界トップクラスの営業網を構築し、自社セールスが地域ごとにきめ細かく対応。
製品の緊急度が高いため、「いつでも顔の見える営業」は安心と信頼の付加価値を創出

国内拠点数
48か所

国内セールス人数
430人

国内顧客カバー率*1
96%

当社と主な競合外資の営業拠点数の比較



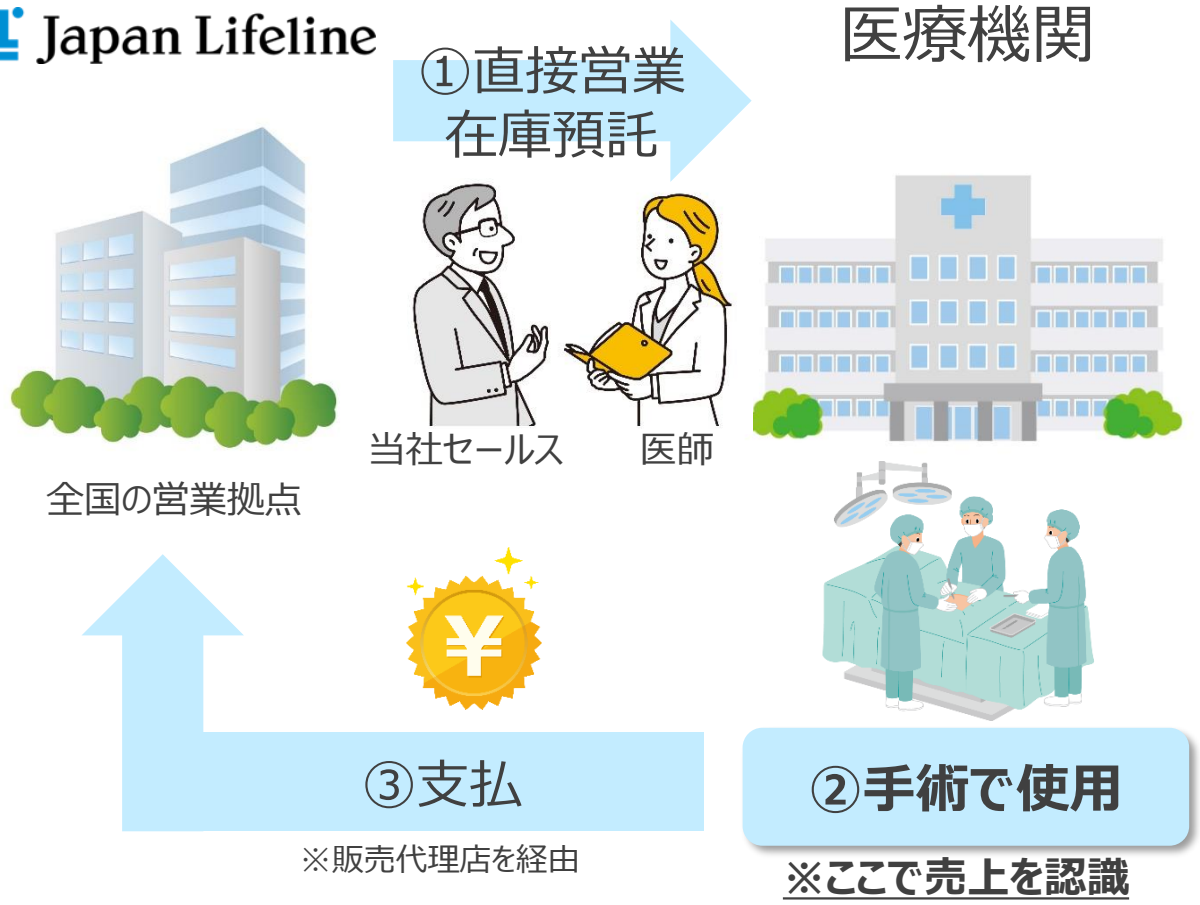
出所：各社ホームページをもとに弊社作成

*1 国内で不整脈手術(アブレーション実施施設)を実施する約770施設、心臓外科手術を実施する約560施設に対する販売実績をもとに当社推定（2023年）

ビジネスモデル

医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生　⇒　**売上は手術件数(＝症例数)に連動**
当社に関連する症例数は潜在的な増加余地が大きく、件数は中長期的に増加する見通し

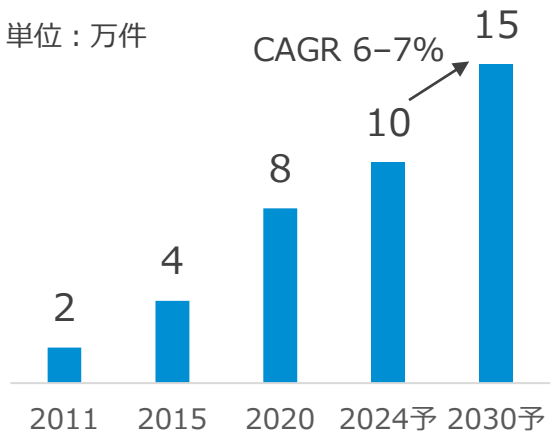
収益モデル



収益ドライバー：手術件数

心房細動の潜在患者数
100–170万人

心房細動の手術件数予測





出所：自社調査を元に推計

- 年間の手術件数10万件前後に対して潜在患者数は10倍以上
- 無自覚で未治療の心房細動は非常に多いと推定される

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

―当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、こちらからご覧いただけます。

中期経営計画(2024/3期–2028/3期) 数値目標

着実な事業成長と魅力的なリターンの両立を目指す

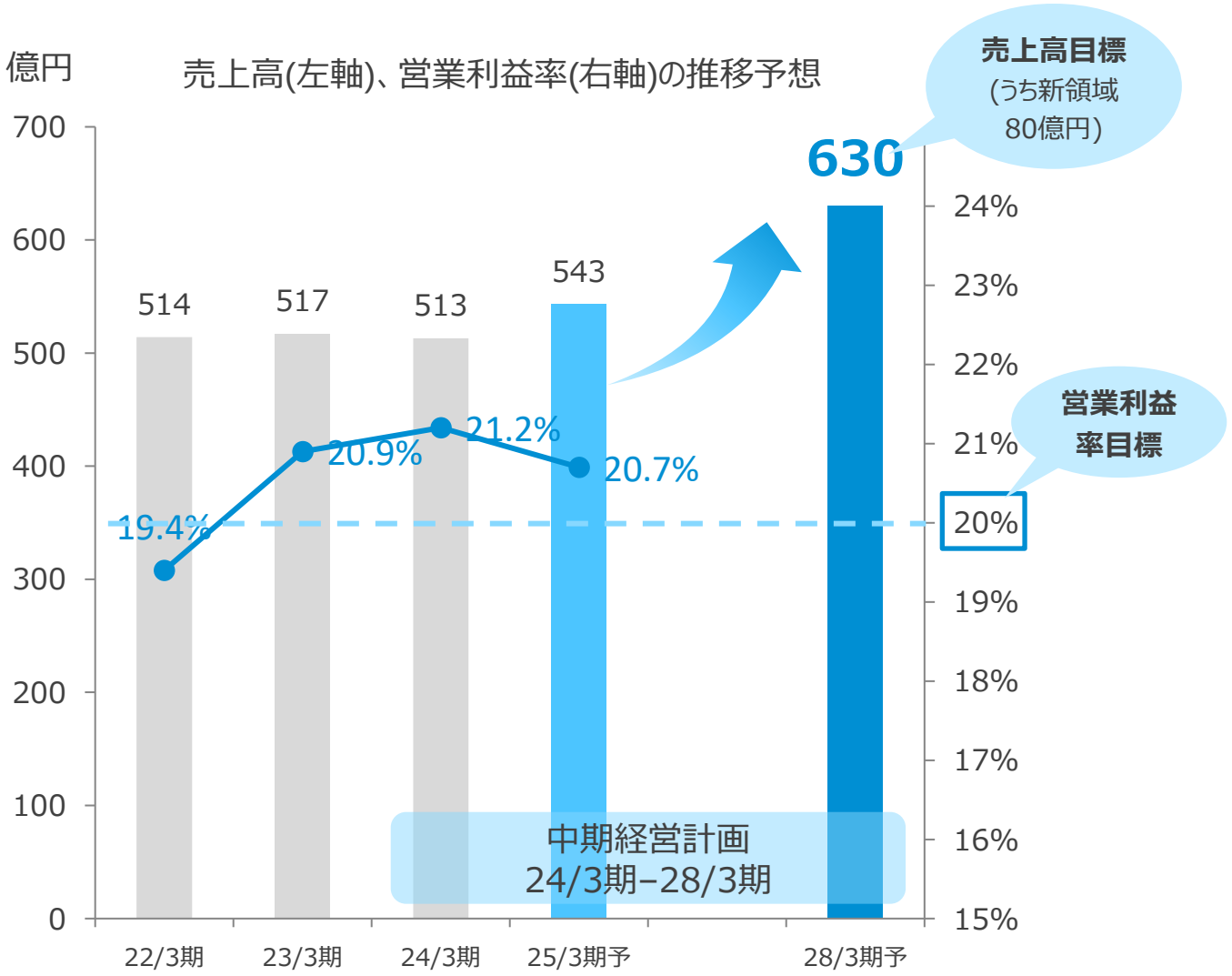
	設定時 2023/3期	目標値 2028/3期	
売上高	517億円	**630億円**	CAGR 4%
新領域売上高	8.8億円	**80億円**	CAGR 55%
営業利益率	20.9%	**20%水準 (毎期)**	
EPS	88円	**120円**	CAGR 8%
ROIC	11.9%	**12.0%**	資本コスト8% (自社推定)

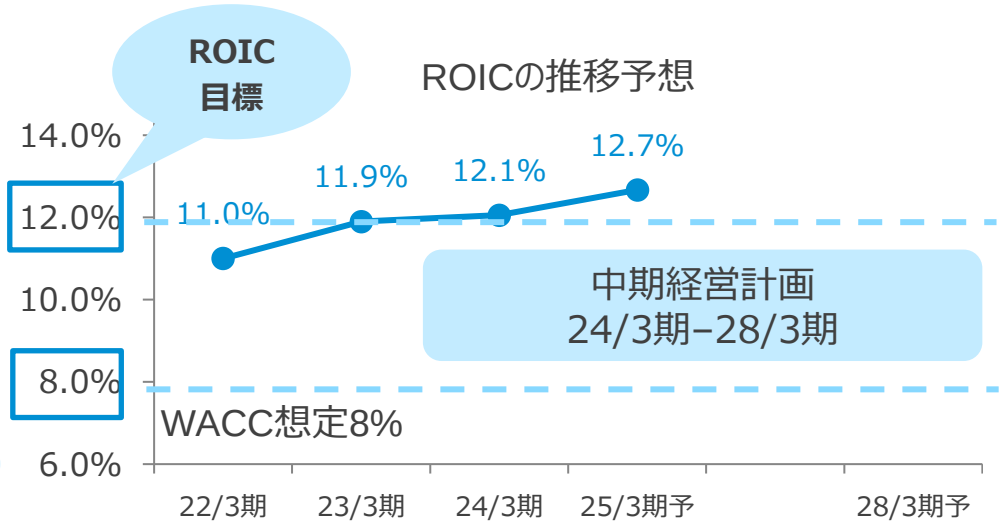
中期目標の進捗状況

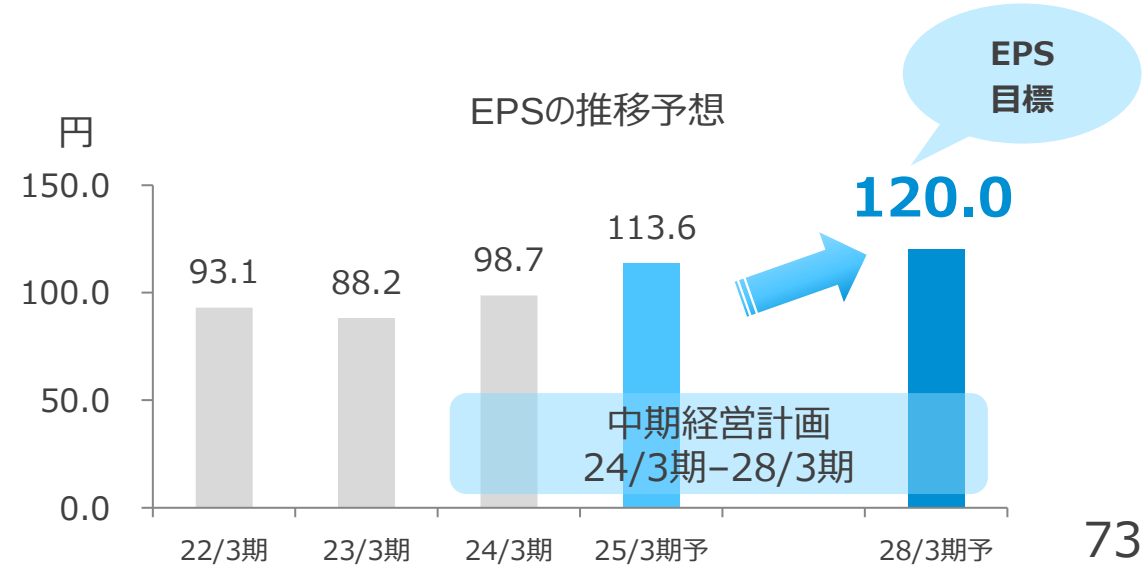
より詳しくは56ページも参照

Japan Lifeline

5か年計画の1年目は順調に進捗 (2年目=25/3期の売上高は過去最高を更新する見込み)







当社の関連市場

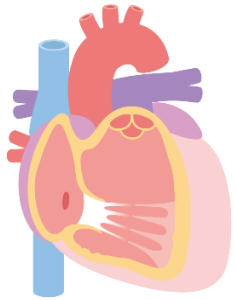
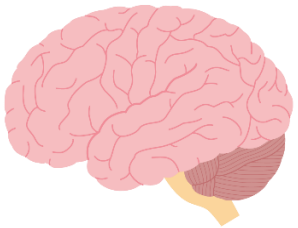
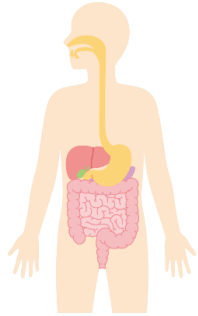
心臓関連に軸足を置きつつ、成長市場の脳・消化器を開拓

医療機器全体の
国内市場規模
約4－5兆円[*1]

体温計や注射針からMRIや人工インプラント臓器まで
4,000分類、30万品目以上の**非常に細分化された市場**

当社が関連する市場 約5,500億円

現有の製品群で6割強(約3,500億円)をカバー

心臓	脳	消化器
		
約4,470億円 中成長(年3~4%)	**約430億円** 高成長(年8%)	**約600億円** 中成長(年4%)

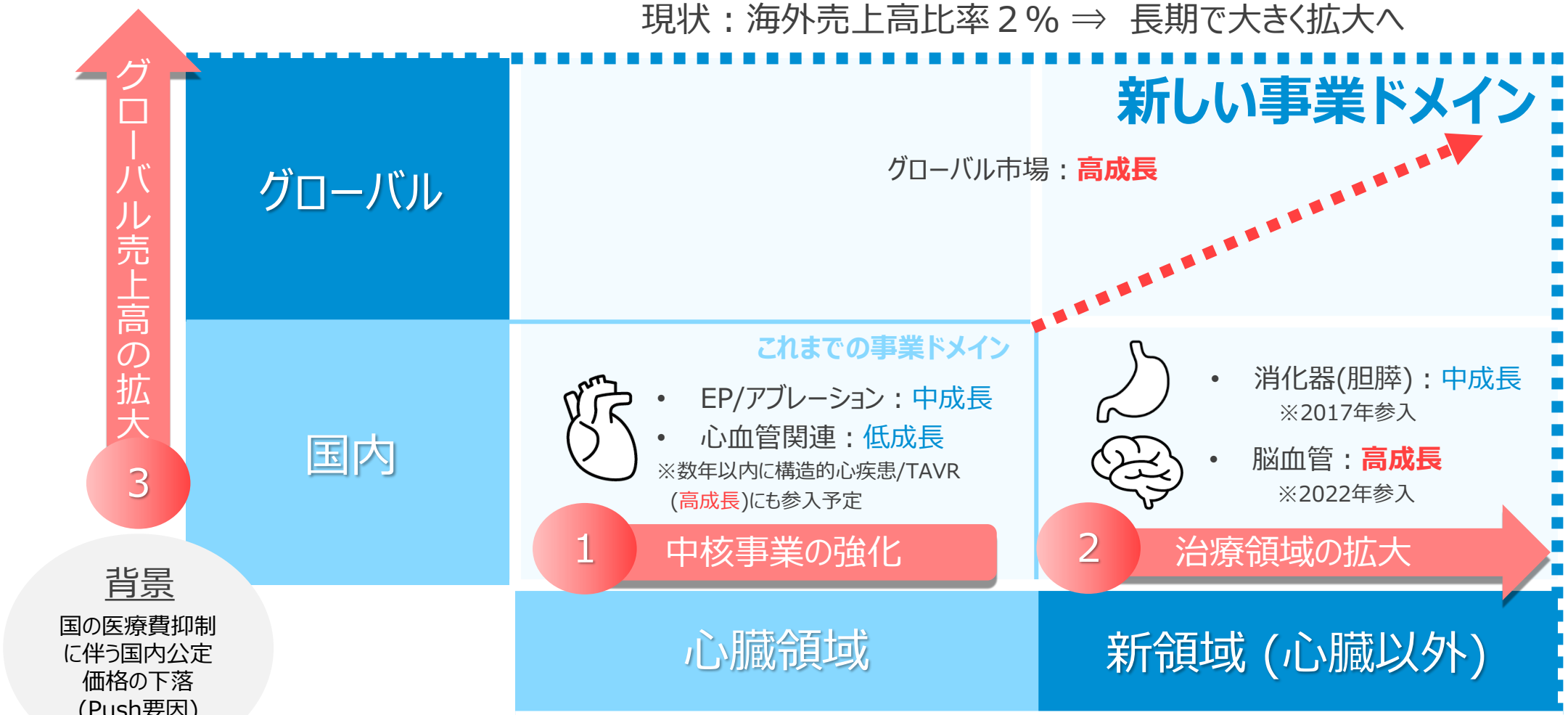
*1 厚生労働省の薬事工業生産動態統計調査、医療機器産業ビジョン研究会「医療機器産業ビジョン2024」など

中期の戦略・方向性

Japan Lifeline

①中核事業を強化するとともに、高成長が見込める②治療領域の拡大と③グローバル市場への進出を図る

現状：海外売上高比率２％ ⇒　長期で大きく拡大へ

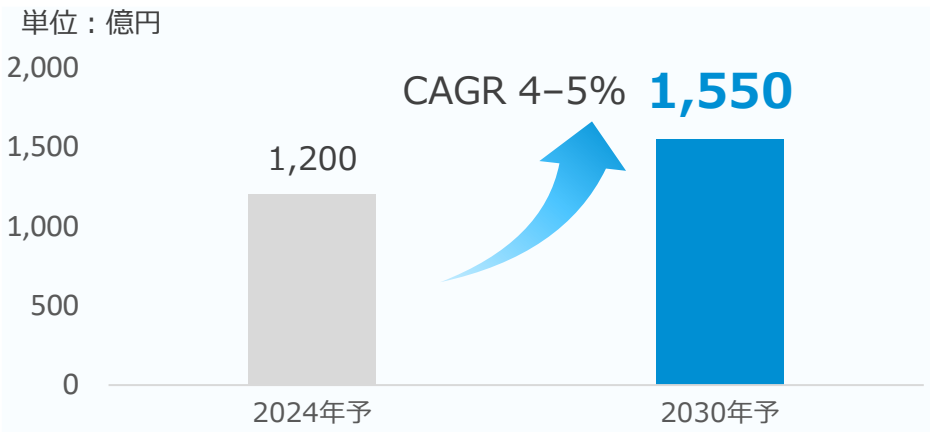
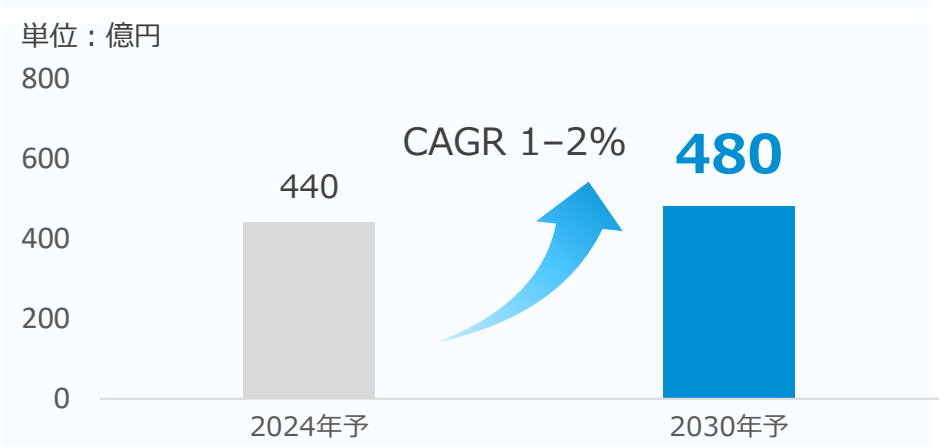


背景

国の医療費抑制に伴う国内公定価格の下落(Push要因)

戦略①中核事業の強化 – 市場

中核事業の国内市場は中期で安定的な成長を予想

	国内関連市場	対象疾患
EP/アブレーション	 	**不整脈（心房細動）** • 症例数：年10万件 • 革新的な治療(PFA)の普及が予想され、**症例数は、年６–８%の堅調な増加を見込む** • 2年に1度、公定価格の改定があるため、金額ベース市場の伸び率は年4–5%と推定
心血管関連	 	**大動脈瘤／大動脈解離** • 症例数：年5万件 • 成熟市場で、症例数の増加は年1–2% • ただし、その内訳で**Frozen Elephant Trunkによる治療は裾野が広がりが見込まれ、年5%以上の増加を予想**

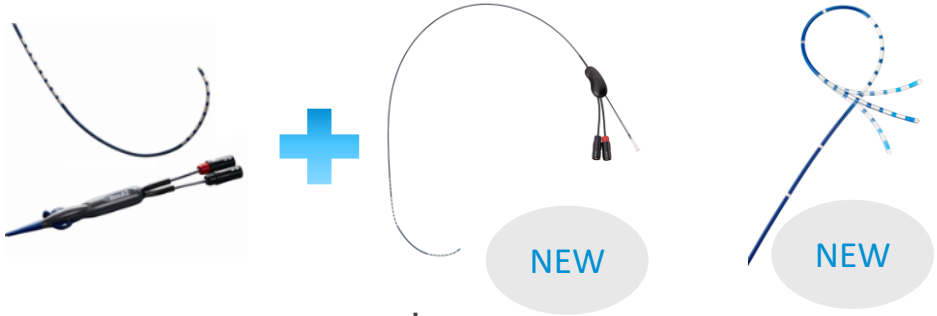
戦略①中核事業の強化 – EP/アブレーション

Japan Lifeline

自社の強み分野を伸ばしつつ、成長ドライバーとなる製品で新市場を開拓

施策① 自社No.1をさらに強化

自社品　心腔内除細動カテーテル BeeATシリーズ



名称	SVC BeeAT	Lumen BeeAT	IVC BeeAT
リリース	2012年	2024/1	2024/4
競合	当社以外 2社	**当社のみ** 他社キャッチアップ困難	**当社のみ** 他社キャッチアップ困難
戦略	販売をSVCモデルからLumen・IVCモデルへ切替え参入障壁を構築(既に30%程度切替え済み)		

施策② 新市場を開拓

仕入品　大腿静脈用止血デバイス VASCADE MVP



従来の止血法：手で押さえる ⇒長時間の安静が必要

新しい止血法：早期止血 早期歩行 早期退院

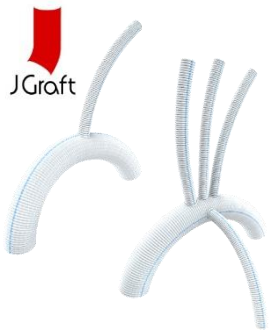
- アブレーション手術後の早期止血ニーズに応える
- **推定40–50億円の未開拓の潜在市場を開拓へ**

戦略①中核事業の強化 – 心血管関連

高成長市場のFrozen Elephant Trunkにフォーカス。胸部用ステントグラフトにも再参入。
フルラインのポートフォリオを構築し、あらゆる症例に対応可能なリーディングカンパニーを目指す

大動脈のイメージ



	外科手術	カテーテル手術
胸部	人工血管  年10,000例 市場トレンド↘	**Frozen Elephant Trunk製品群** NEW NEW  新製品開発中 年4,000例 市場トレンド↑	胸部用ステントグラフト(TEVAR) 現状取り扱いなし 年8,000例 市場トレンド→
腹部	人工血管  年9,000例 市場トレンド↗		腹部用ステントグラフト(EVAR)  仕入品 年13,000例 市場トレンド→

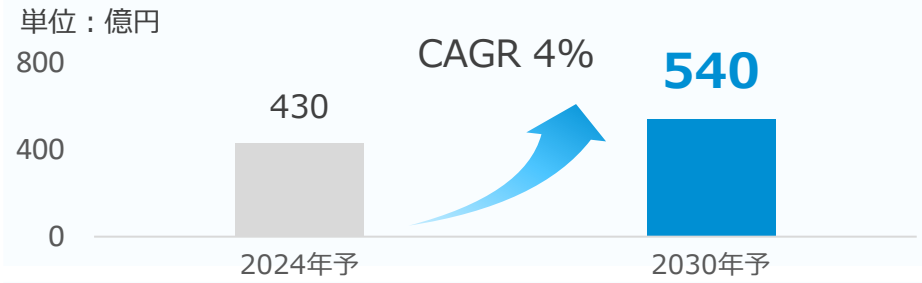
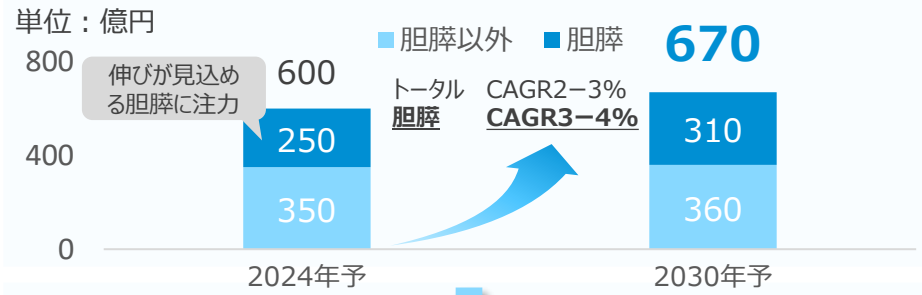
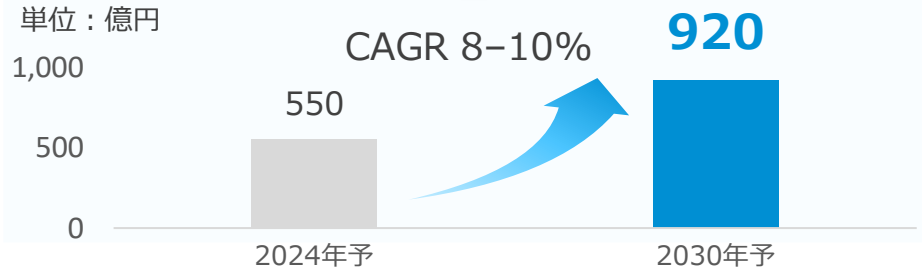
施策①
高成長の
FETにフォーカス

施策②
競争力ある
製品で再参入へ

＊ 各症例数は自社推計

戦略②治療領域の拡大 – 市場

今後の成長が見込まれる領域へ治療領域を拡大

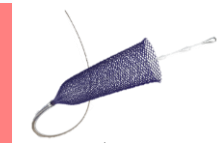
	国内関連市場	対象疾患
脳血管関連		**脳血管内のカテーテル治療**(脳動脈瘤・脳梗塞) • 血管内治療 症例数：年間５－６万件*1 • 潜在患者数は多く、血管内治療は急速に普及中 • 心臓領域と異なり、価格競争はマイルド
消化器		**胆管がんや胆管結石等** • 胆膵関連 ERCP症例数：年間27万件*2 • 内視鏡を使って胆管・膵管のがん切除や結石の除去を行う。手術で使われる処置具の市場は年3%+で拡大
	「構造的心疾患」は当初の中期経営計画では見込んでいなかった領域（**アップサイドポテンシャル**）	
構造的心疾患 (うちTAVRのみ) NEW		**心臓弁膜症のカテーテル治療** • TAVR症例数：年間1.5万件*3 • 推定潜在患者数200−300万人、65歳以上の10人に1人がかかる

*1 血管内治療(脳動脈瘤のコイル塞栓術、脳梗塞の血栓回収両方、頚動脈ステント術などの合計 *2 ERCP(内視鏡的逆行性胆道膵管造影) NDBオープンデータ 等を踏まえて自社推計
*3 TAVR(経カテーテル大動脈弁置換術) 件数は関連学会での発表等を参考に自社推計

戦略②治療領域の拡大 – 各領域の方針

差別化された新製品を次々に上市し、早期にニュープレイヤーとしての市場プレゼンスを確立へ

	戦略	売上目標	マイルストーン
脳血管 仕入品	脳梗塞と脳動脈瘤の製品群(仕入品)をタイムリーに上市 ⇒契約スキーム p57	単位：億円 CAGR 81% 2 → 45 23/3期 28/3期予	2025/3期 脳梗塞治療のフルライン化*1（完了） 2026-27/3期 脳動脈瘤のキープロダクト（フローダイバーター）を上市（進捗中） 2028/3期 脳血管で業界No.1ポートフォリオを完成
消化器 自社品	胆膵分野の製品群(自社品)をタイムリーに上市	単位：億円 CAGR 40% 7 → 35 23/3期 28/3期予	2025/3期 アクセス系の処置具*2拡充（進捗中） 2026-27/3期 診断治療系処置具*3拡充（進捗中） 中長期 自社オンリーワンの治療機器を上市
構造的心疾患 仕入品	差別化された仕入商品を2027/3期頃を目指して上市 ⇒契約スキーム p60		2027/3期ごろ 国内承認取得・上市


フローダイバーター
(※国内未承認品)


胆道鏡システム「DRES」
(開発イメージ)


Meril Life Sciences社製
経カテーテル生体弁
「Myval Octacor」
(※国内未承認品)

*1 血栓吸引カテーテルおよびステントリトリーバー（いずれも上市済み） *2 ガイドワイヤ、ダイレータ、バルーンなど *3 結石回収、ステント、胆道鏡など

戦略③グローバル売上高の拡大

中長期で海外市場への進出に取り組む

短期

中東・アジアの販路立上げ（進行中）

- ✓ 代理店との交渉加速
- ✓ 10数か国への展開を検討
- ✓ EP/アブレーション、心血管関連、消化器の幅広い自社製品が対象
- ✓ **既に、アジア6国・地域＆北米向けの輸出あり**、輸出売上高比率2%程度

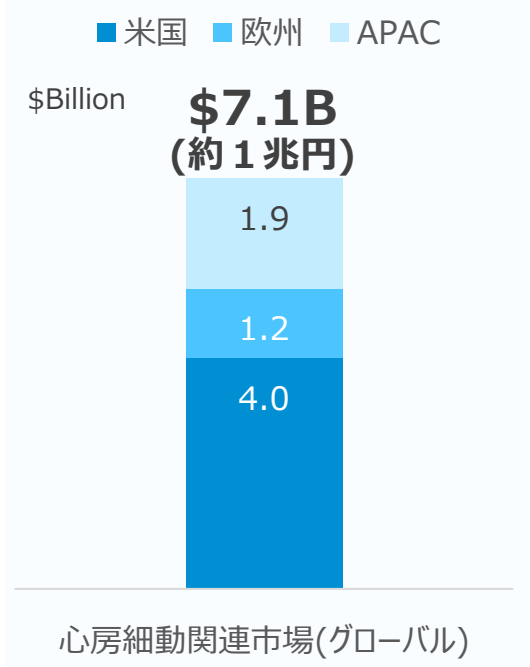
中長期

欧州・米国市場へ進出



- ✓ 自社製品の米FDA承認取得
- ✓ 自社の高機能シャフトの独自技術を活かしたOEM製造の可能性を模索

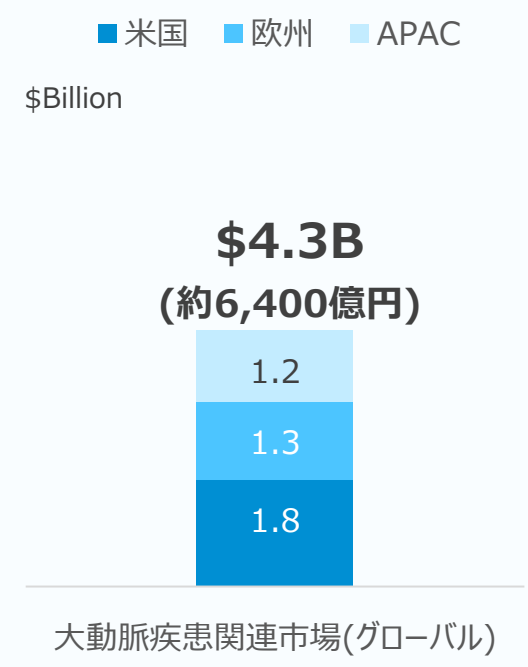
不整脈アブレーション（EP/アブレーション）



市場伸び率(~2030年頃)
CAGR 10%+

出所：自社推定。診断・治療カテーテル、スティーラブルシース、エコーカテーテル、アクセサリを含む。3Dマッピング装置やモニター類は除外。

大動脈疾患（心血管関連）



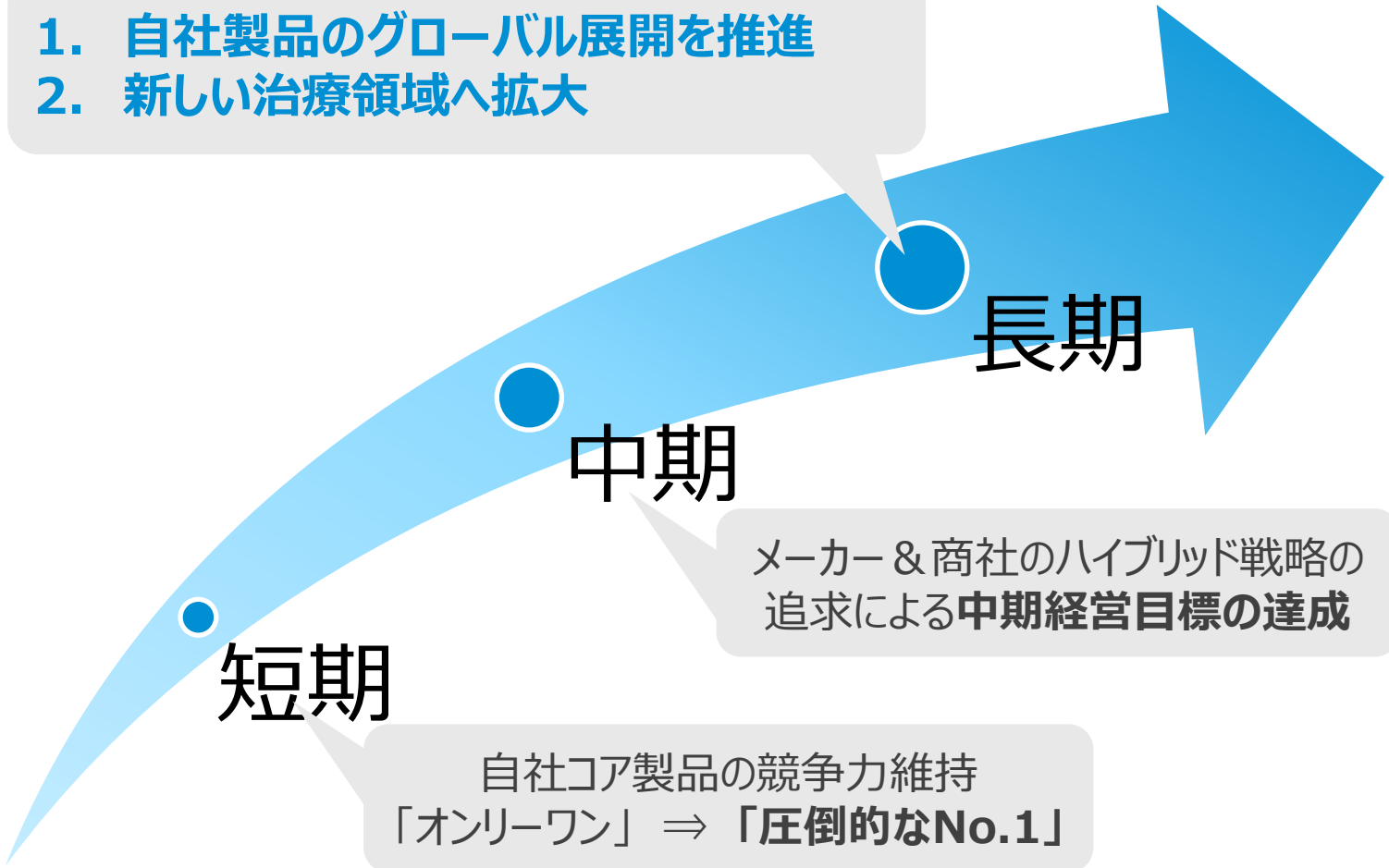
市場伸び率(~2030頃)
CAGR 7–8%

出所：自社推定。人工血管(大血管), Frozen Elephant Trunk, 胸部・腹部ステントグラフトを含む

長期展望

「メーカー×商社」のハイブリッドは攻守にバランスの取れた戦略として堅持する
自社製品の海外販路拡大や治療領域の拡大を戦略的に推進

1. 自社製品のグローバル展開を推進
2. 新しい治療領域へ拡大



メーカー＆商社のハイブリッド戦略の
追求による**中期経営目標の達成**

自社コア製品の競争力維持
「オンリーワン」 ⇒ **「圧倒的なNo.1」**

グローバルで
患者さまの「生きる力」
を支える存在となる

＜目安となる財務指標＞
- 売上総利益率 60%＋
- 営業利益率 20–25%
- 自社製品比率 65–70%

Japan Lifeline

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

―当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、こちらからご覧いただけます。

売上高・営業利益の推移

Japan Lifeline

症例数の増加を契機に**自社製品で大きく成長**。ポートフォリオ改革で業績は一時横ばいだったが、足元は新領域を強化する等の**成長戦略を打ち出し、新たな成長フェーズに向かう**

売上高と営業利益の実績推移　(単位：億円)

心房細動症例数の増加
(年20%以上)
に伴うオンリーワン自社製品の急拡大



(+) 心房細動症例の継続的な増加 (年数%−10%)
(+) リズムディバイスの仕入先変更 (20/3期)
(+) 消化器・脳血管領域への新規参入
(−) 新型コロナの拡大 (20/3期−23/3期)
(−) インターベンション事業の不振 (24/3期で終了)
(−) 一部仕入商品の独占販売終了(胸部ステントグラフト、人工心臓弁：19/3期、RFニードル：23/3期)

成長路線へ回帰

630億円

540億円

112億円

営業利益率20%以上

新型コロナの拡大

	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期	19/3期	20/3期	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期予	28/3期予
売上高	243	256	305	371	422	455	517	512	514	517	513	540	630
営業利益	12	18	37	76	106	105	104	103	99	108	108	112	

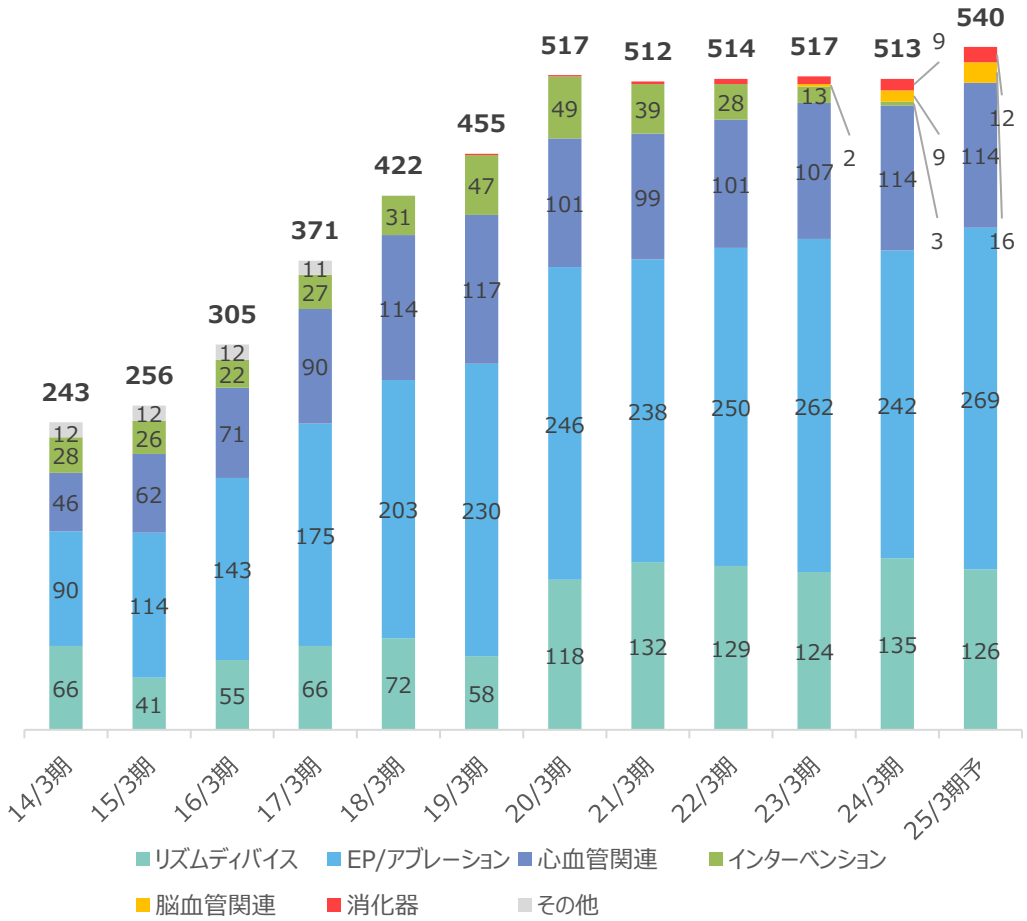
■売上高 ■営業利益

業績拡大期 → ← ポートフォリオ改革期 → ← 業績再拡大期 →

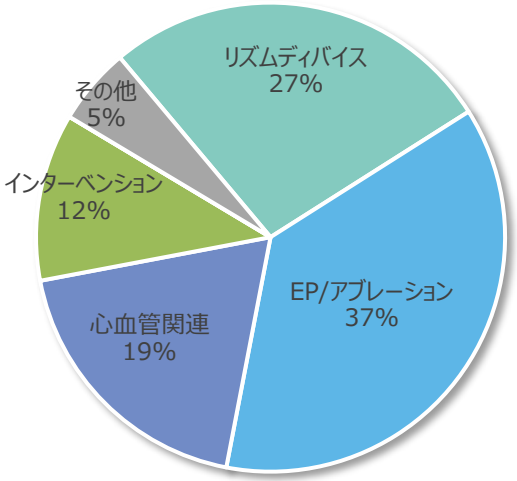
売上高構成の長期推移

中核のEP/アブレーションを強化しつつ、成長戦略でポートフォリオの新陳代謝も推進

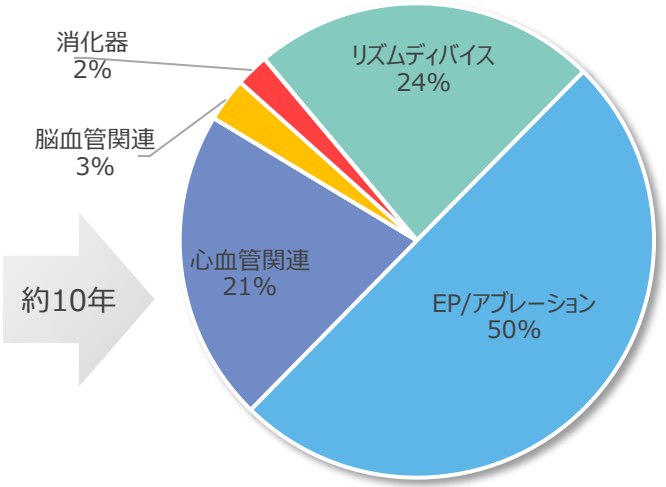
品目別の売上高推移(単位：億円)



2014/3期　売上構成比



2025/3期 売上構成比(予)



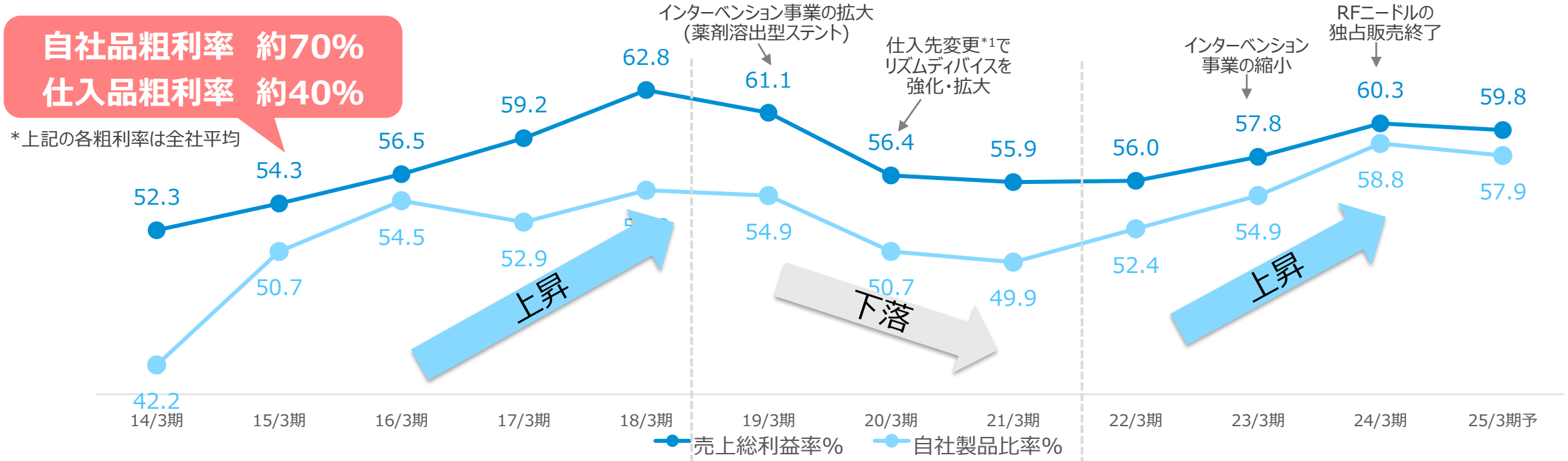
売上構成比の過去10年間における変化

- **EP/アブレーションは売上高の半分を占める中核事業**に成長
- 競争激化や価格下落による影響で**インターベンションから撤退**
  あわせて、人的資本もインターベンションから消化器へシフト
- **消化器と脳血管は成長事業と位置づけ、拡大開始**

売上総利益(マージン)の傾向

全社マージンは短～中期では仕入品の戦略の影響を受ける。一方、自社製品売上に連動する症例数は増加傾向にあるため、**長期のマージンのベーストレンドは上昇。**

売上総利益率と自社製品比率の推移(単位：%)



仕入品の拡大
- インターベンション事業の拡大
- リズムディバイスの拡大

不採算事業(仕入品)の整理等
- インターベンション事業の縮小
- RFニードル(仕入品)の独占販売終了

＊1 MicroPortとの独占販売契約を終了し、2019年10月からBoston Scientific社製品に切り替え

ベーストレンド：症例数増加⇒自社品増加⇒マージン上昇

株主還元*1

中期では株主還元を大幅に強化へ。ベースとなる配当は配当性向40%。
さらに、配当の上乗せや自己株式の取得オプションを適宜検討

◆株主還元の基本方針

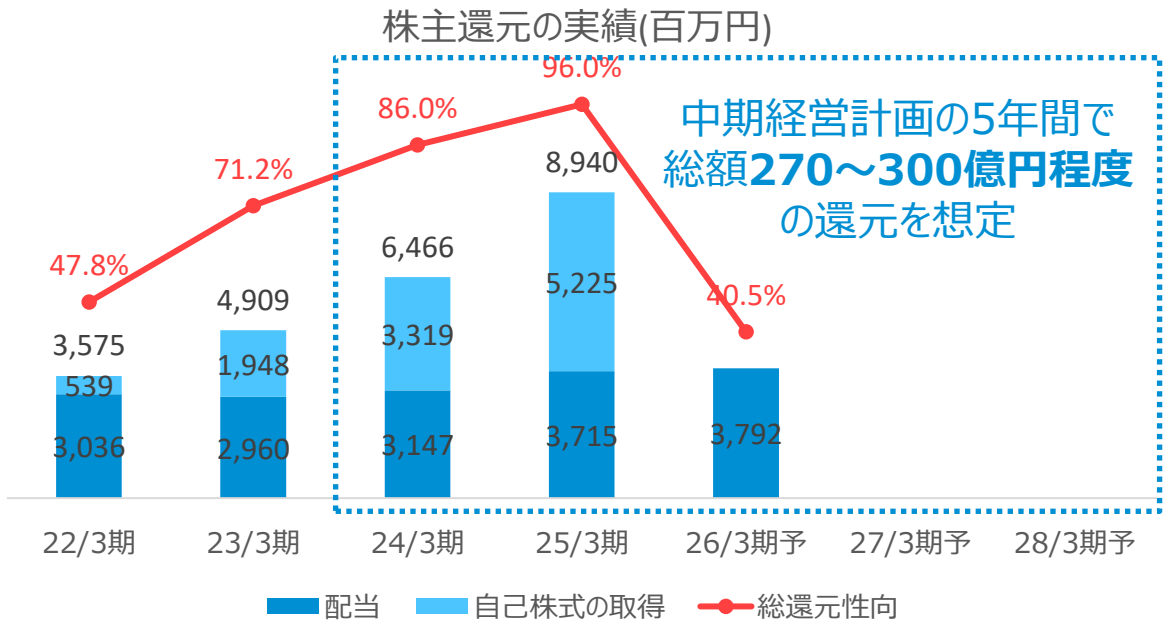
②′
配当
(上乗せ)

②″
自己株式
の取得

- 業績・株価動向・KPIの状況を踏まえ、追加の還元策を適宜検討
- 自己株式の取得後、使途が見込まれるものを除き、発行済総数の1%を超える部分を消却

①配当(ベース)

- **配当性向40%**
  またはDOE5%
  (いずれか高い方)



参考）配当実績	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期
EPS(円)	93.13	88.22	98.73	131.43
1株当たり配当(円)	38.00	38.00	42.00	53.00
配当性向(%)	40.8	43.1	42.5	40.3

*1 本資料は2024/12版インベスターズガイドのものですが、本スライドは2025/5時点の最新の状況を反映しています。

会社基礎情報

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,250名/単体1,004名(2025年3月31日 現在)
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2025年3月31日 現在)
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp

Ver.2 変更の内容

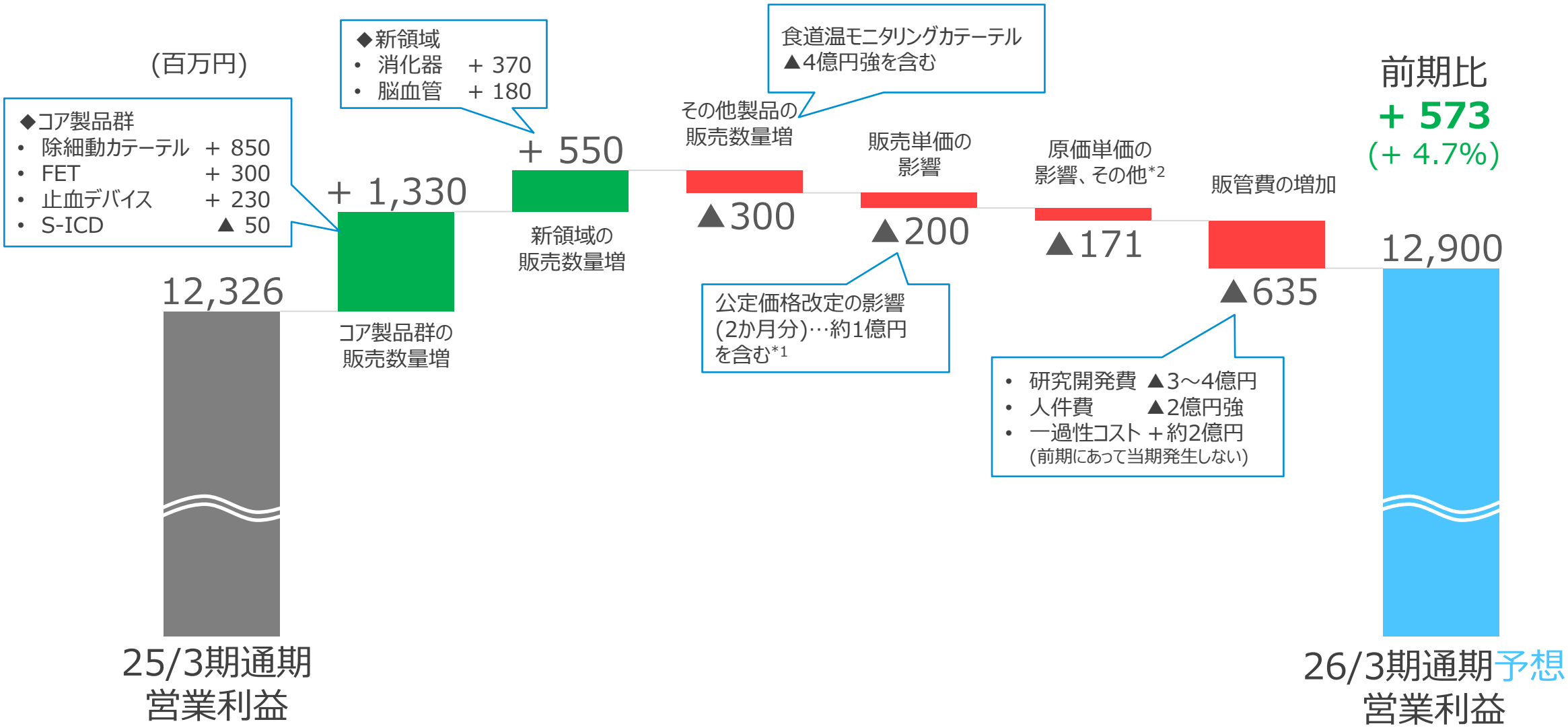
1. 資料の軽微修正
   P41「新戦略③ グローバル売上高の拡大」スライド左下、海外売上高のグラフ記載していた各期の金額を
   下記のとおり修正しました
   【修正前】　23/3期 609　　24/3期 577　　25/3期 868
   【修正後】　23/3期 698　　24/3期 743　　25/3期 1,084

2. 資料の追加
   P91「2026年3月期　営業利益増減分析予想」を追加しました

2026年3月期 営業利益増減分析予想

Japan Lifeline

✓ PFAの浸透により一部製品の減収はあるが、コア製品群と新領域は引き続き堅調



*1 2024年6月に公定価格の改定が行われたため、前年比では2か月分の価格改定あり/なしの差が生じる *2 製品廃棄・評価損の影響等を含む